

完了報告書

記入年月日 2026年 2月 16日

採択団体名 一般社団法人石見地域循環共生協議会

■事業概要




基本情報	
事業名	「スマートコミュニティ浜田」防災・減災プロジェクト ～DX・GX・EXの力で、誰一人取り残さないレジリエントな共助社会構築をめざして～
事業内容	事業内容①:デジタル防災教育(DX)の実践 事業内容②:エネルギー自立・減災教育(GX)の実践 事業内容③:体験型・多世代交流防災教育(EX)の実践
事業背景	<p>本事業に取り組む「(一社)石見地域循環共生協議会」(以下、LC3と記す)は、令和7年9月に急速な人口減少下において生じる様々な地域課題に対して、地域の多様なリソースをもつ企業、団体と自治体が一体となって官民が連携して取り組むことを目的として設立された。</p> <p>本事業では、浜田市が抱える「若者の流出と世代間交流の希薄化」という社会課題に対し、地域における「防災教育」を、地域のつながりを再構築する機会と捉え、本年度は、将来的にDX(デジタル技術)・GX(エネルギー自立)・EX(体験を通じた学び)を融合させて、革新的なプログラムを開発するための準備期間と位置付けている。</p> <p>住民一人ひとりが「自分ごと」として防災に取り組み、世代や分野を超えて助け合う「共助」の文化が根付いた、強靱で持続可能な「スマート・レジリエント・コミュニティ」の構築を目指すものである。</p>
コミュニティ 設立の経緯	<p>本事業は、浜田市内で先進的な取組を行っている地域団体「三階(みはし)地区のまちづくりネットワーク」を中心に、防災コミュニティのモデル化を目的とするものであり、浜田市と緊密に連携を取りながら事業を行う。事業推進においては、LC3がハブとなり、市の防災担当課、教育委員会等を横断的に繋ぎ、更に組織外のリソースも活用することによって、包括的な防災教育を推進する。</p> <p>○その他連携・協力主体 教育機関:島根県立大学(防災研究専門教員、学生ボランティア) みはし地域まちづくりネットワーク防災部会、浜田市立三階小学校、自主防災組織 地域企業・団体:神楽電力(株)(エネルギー)、石見ケーブルビジョン(株)(情報通信)、浜田商工会議所 ○アドバイザー:鍵屋 一氏(跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部教授)他</p>
本事業に関する過去の 取り組み内容	<p>採択団体の防災教育に関する本事業の過去の取り組みや、連携団体とのこれまでの関係性を文章ベースで記載</p> <ul style="list-style-type: none">・LC3は、団体の設立までの過程の中で、所属及び関係する企業・団体のリソースを検討して、本事業の企画し、推進している。・本事業が「コミュニティ防災教育」に取り組むのは、今回が初めてのケースとなるが、LC3に参画した企業・団体のこれまでの実績(島根県立大学、神楽電力、石見ケーブルビジョン等の地域活動)やリソース、更に本事業を契機として、外部組織の防災教育に関するリソースの提供を受けることで事業を推進している。・特に、本事業でモデル地区のターゲットしていた「みはしまちづくりネットワーク(防災部会)」のこれまでの取組(実績データを添付)を継承しつつ、LC3が目指すDX、GX、EX、CXといった手法、教育プログラムの開発を行う。
事業体制	<p>本事業は、LC3が事業主体となり、行政、教育機関、地域企業、専門家、住民を繋ぐハブとして機能し、強固な官民金学連携体制で推進する。</p> <ul style="list-style-type: none">・事業の意思決定: LC3内に外部リソースを使って「防災・減災タスクフォース」を設置し、そのPMが中心になって、各連携体の代表者で構成される「モデル地区協議会」として、事業全体の意思決定と進捗管理を行う。 <p>・LC3: 事業内容①②③のプロジェクトマネジメント、広報、自治体との連携等 5名(内、2名は組織外リソースを利用) 以下、LC3組織内の企業・団体 ・神楽電力(株):事業内容③のイベントの企画・運営 2名</p>


	<ul style="list-style-type: none"> ・石見ケーブルビジョン(株):事業内容①②③の情報発信 2名 ・(株)山陰中央新報社:事業内容③の情報発信 1名 <p>以下、LC3組織外企業団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田市:防災安全課等からの事業協力、地域住民への周知等 ・島根県立大学:事業内容①②③の教育・研究分野での協力 1名(教員)、学生(26名)LC3 賛助会員 ・日本ミックニヤ(株):事業内容①③の企画・運営に関する協力 5名 ・山陰パナソニック(株):事業内容③のイベントの情報環境・機器類レンタル 3名 ・LOMPY JAPAN:事業内容③のイベント会場の設営 2名 ・みはしまちづくりネットワーク防災部会:事業内容①②③の事業全般の協力・情報提供 6名
<p>全体スケジュール</p>	<p><9月~10月中旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月 LC3の法人化、本事業の申請に関する検討と事業実施体制(外部リソース活用を含む)の構築 ・10月13日 事業運営会議の開催① 浜田市防災担当課との合同会議、本事業の目的共有・具体的内容を決定 モデル地区推進準備会(仮称)の設立 <p><11月下旬~12月下旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月22日 事業内容③「体験型・多世代交流防災教育(EX)の実践」:コミュニティ防災教育に関する各種取組・情報発信。集客を目的として、LC3 設立記念フォーラムとの同時開催 ・11月23日 コミュニティ防災教育実践に関する勉強会を開催 先進事例に取り組み専門家を講師に招聘(跡見女子大学鍵屋教授) ・12月6日 事業運営会議の開催② 勉強会の振り返りと視察研修の事前学習、事業3つの柱の取り組み状況の共有 事業内容①:「逃げ地図」ワークショップの開催 ・12月19日 広島市豪雨災害伝承会の視察・研修(仮) 内閣府又は内閣府が指定する民間事業者に中間報告を実施 <p><1月中旬~2月上旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月16日 「コミュニティ防災教育実践講演会」を開催 先進事例に取り組み専門家を講師に招聘(跡見女子大学鍵屋教授) 防災 DX に関する勉強会開催 ・1月下旬 事業運営会議の開催③(各取り組みの報告と成果の検討) ・2月16日 成果報告書を提出
<p>事業目標・事業成果</p>	
<p>事業目標全般 (教育提供者側)</p>	<p>LC3 の会員企業・団体を中心に「コミュニティ防災教育」の取組について共有を図り、事業提供者側はタスクフォースでの推進体制が段階的に構築出来ている。参加者については、「防災」についての意識醸成を目的とした「体験型・多世代交流防災教育(EX)の実践」のイベントを通じて、市民への認知も拡大をしつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■10月13日 事業運営会議の開催① 提供者:LC3 2名 参加者:浜田市1名、みはしまちづくりネットワーク2名(代表者)、LC3 2名 計5名 本事業の目的の共有、計画の精緻化 ■11月22日 事業内容③「体験型・多世代交流防災教育(EX)の実践」:コミュニティ防災教育に関する各種取組・情報発信。 提供者:LC3 5名 参加者:市民を中心に123名 ■11月23日 コミュニティ防災教育実践に関する勉強会の開催 提供者:LC3 ※外部リソース:日本ミックニヤ(株) 3名 参加者:市民、学生 10名 ■12月6日 事業運営会議の開催② 前回勉強会の振り返りと視察研修の事前学習、事業3つの柱の取り組み状況の共有/事業内容①:「逃げ地図」ワークショップの開催 提供者:LC3 2名

	参加者:市民18名
事業成果全般 (教育提供者)	<p>本事業で、モデル地区としてターゲットとしていた「三階小学校区」について、地域のまちづくり団体である「みはしまちづくりネットワーク」と、事業を通じて情報交換や課題を共有し、組織的な連携強化を図ることが出来た。</p> <p>提供者である LC3の実施体制(タスクフォース)が整備され、浜田市とも協議して、「モデル地区推進準備会」を設立し、自主防災組織や地域住民、行政、専門家等によるし、事業目的の共有と活動基盤の構築を行うこととした。</p> <p>本事業で目指している以下の3点については、上記の組織的な連携強化と「モデル地区推進準備会」を中心に推進をしていく体制が整備出来た。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.防災力の向上: 住民の防災意識と実践力が向上し、災害時の「共助」の仕組みが強化される。 2.地域活性化: 防災をきっかけとした世代間・分野間交流が活性化し、地域の課題解決を担う新たな人材が育成される。若者が防災活動の主役となることで、地域への愛着が深まる。 3.モデルの創出: DX・GX・EX を融合した「浜田モデル」は、全国の同様の課題を抱える地域にとって、持続可能なコミュニティ防災教育の先進的なモデルケースとなる。
事業目標全般 (参加者側)	<p>■防災教育の参加者(地域への波及効果、学生の理解度等)</p> <p>11/22 開催の事業内容③「体験型・多世代交流防災教育(EX)の実践」(市民参加123名)の中で、eスポーツや VR を組み入れながら、地域社会への「防災教育」発信は端緒につけることが出来た。いたばかりであるが、イベントを契機として継続な取組としていく体制を整備することが出来た。</p> <p>学生は、イベントの運営に関わり、市民と直接接して「防災」に関する対話をした経験から、防災意識の向上が図られた。</p> <p>「モデル地区推進準備会」では、LC3のタスクフォースを中心に、構成メンバー及び関係企業・団体等と連携しながら、申請段階で目標としている、住民一人ひとりが「自分ごと」として防災に取り組み、世代や分野を超えて助け合う「共助」の文化が根付いた、強靱で持続可能な「スマート・レジリエント・コミュニティ」に積極的に参加する市民意識の醸成を目指す。</p>
事業成果全般 (参加者側)	<p>本事業の成果として、申請段階で効果としていた以下の3つの成果目標に即して中間報告する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.防災力の向上:住民の防災意識と実践力が向上し、災害時の「共助」の仕組みが強化される。 浜田市、LC3防災タスクフォースメンバー(5名)、三階小学校区のまちづくりネットワーク防災部会メンバー(6名)との「モデル地区推進準備会」をベースとして、官民で連携してコミュニティ内での持続的な「共助」の仕組みに参加する意成が生まれている。 2.地域活性化:防災をきっかけとした世代間・分野間交流が活性化し、地域の課題解決を担う新たな人材が育成される。若者が防災活動の主役となることで、地域への愛着が深まる。 本事業での島根県立大学の教員、学生参加を通して大学との連携を強化することが出来た。事業内容③のイベントに学生25名が主催者側として参加し、「防災」を学生自身が自分事として捉える意識変容も観察できた。大学との組織的な体制づくりも検討する。 3.モデルの創出: DX・GX・EX を融合した「浜田モデル」は、全国の同様の課題を抱える地域にとって、持続可能なコミュニティ防災教育の先進的なモデルケースとなる。 11/22 の事業内容③のイベントを通じて、世代を超えて楽しめる e スポーツや VR などデジタルな技術を活用したイベントでの参加から防災意識を醸成することに関して実績をつくることが出来た。
展開できる 知見やノウハウ	<p>本事業を通して、LC3がアクションとしている DX(デジタル)・GX(再生エネルギー)・EX(e スポーツなど新しい体験)を融合させて、市民の防災意識を向上させる「コミュニティ教育モデル」(「浜田モデル」)を、これまで実施してきた事業において実施してきた。</p> <p>まだ知見というには、十分ではないが、中間報告の段階では、「新しいコミュニティ防災教育」や「スマート・レジリエント・コミュニティ」という大きな目標を掲げることで、多様な企業、団体、個人が関わらう場や機会を生み出すことが出来る。</p>

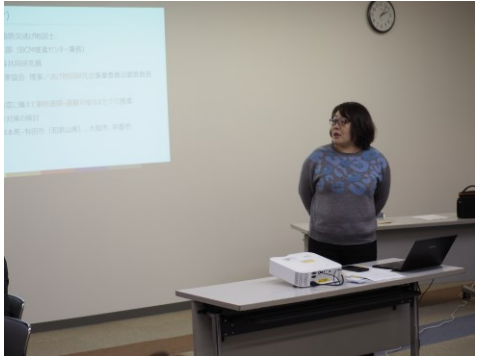

	<p>このようなアクションを共有することで、従来取組をされてきた地域活動を活性化することにつながるという実感を得ている。</p>
<p>コミュニティ防災教育の重要な観点</p>	<p>本事業申請時には、十分に見えていなかった地域防災活動の実情を、長年に渡って活動されてきた地域団体から直接にヒアリングし、本事業を通じて、実情に合わせながら柔軟に方向性を合わせていくこと。</p> <p>コミュニティ防災教育において、専門家の鍵屋一教授からは、「正常化の偏見」(自分に都合の悪い情報を軽視する人の性向)ということ。</p> <p>「防災」という言葉だけでは人は集まりにくい。e スポーツやVR、おしゃべり会といった『楽しさ』や『交流』を入り口にすることで、無関心層(特に若者)を巻き込めると実感。</p>
<p>残課題等</p>	<p>・LC3 の設立理念である「DX(JP-LINK)」「GX(市民発電)」「EX(e スポーツ、なりわい大学)」の融合という独自性の高い視点の強化、特に、地域のデータ連携基盤を活用したDXによる防災教育手法についての勉強会の開催や知見を得ること。</p> <p>・浜田市三階地区の防災計画に対するアプローチ</p> <p>①モデル地区住民(特に三階地区)の参加率向上に向けた、自治会ルート以外の広報手段の確立。②行政イベントとの日程調整および連携強化。③小学生～高校生といった若年層へのリーチ不足の解消。</p>



■事業内容

事業内容③ 体験型・多世代交流防災教育(EX)の実践		
事業内容③目標 (提供者側)	<p>LC3 の設立記念フォーラムでの情報発信 当初より予定していた、LC3 の設立記念フォーラムと並行して、事業内容③「体験型・多世代交流防災教育(EX)」を実践し、「コミュニティ防災教育推進事業」についての情報発信を行った。LC3 の設立意義と、本事業における取り組み内容を参加者に向けて効率よく印象付ける機会とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■e-スポーツを通じた防災教育を体験する中で、楽しみながら防災について学ぶ機会を提供する。 ■e-スポーツの中で触れる「備蓄品」などを実際に展示することで連携・協力を図る 	
事業内容③目標 (参加者側)	<p>若者や子どもたちが楽しみながら防災意識を高め、イベントの企画・運営を通じて地域の担い手となる経験を積む機会を得た。防災グッズの必要性や災害時に役立つロープワークや応急手当、家具の固定方法などを学ぶことを出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■楽しみながら「防災」について学び、本事業の展開にも興味・ ■体験したことのない災害を模擬体験することで、「防災」への意識向上に繋ぐ機会を得た。 	
事業内容③ 「体験型・多世代交流 防災教育(EX)の実 践」(実施日:11/2 2)	<p>■具体的な取り組み内容 「防災 VR 体験会」の実施 VR ゴーグルを利用した大地震の模擬体験を実施した(地震編)</p>	
	VR 体験	
	<p>■成果(参加者) 大地震の体験した人は少なく、VR を通じて模擬体験するなかで、「怖い」や「何もできない」などと率直な感想が聞けた。</p>	

	<p>■具体的な取り組み内容 「防災 e スポーツ大会」の内容と連携する形で の災害備蓄品の事例展示」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般家庭でも対応可能な備蓄品事例 <ul style="list-style-type: none"> ・ソーラーパネル、蓄電池 ・感震ソケット ・携帯トイレ など ・浜田市が整備している備蓄品の事例展示 <ul style="list-style-type: none"> ・HONDA 社製給電器 ・ラップポントイレ 	
<p>事業内容③ 事業内容③「体験型・多世代交流防災教育 (EX)の実践」 (実施日:11/22)</p>	<p>展示状況</p>	
	<p>■成果(参加者) 多くの方が給電器に興味を持ち、行政がこのような備蓄をしていることは初めて知ったとのこと。 電気自動車が本当に来る事ができるのかといった心配の声もあった。</p>	
<p>事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 ・既に予定されていた浜田市主催の防災イベントと日程が重複しており浜田市からの協力体制が不足した。</p> <p>■乗り越えた方法 ・浜田市所蔵の防災備蓄品を借用・展示することで、浜田市の取組みについても市民向けに発信することが出来、本事業と浜田市の連携関係も PR できた。</p>	
<p>事業内容③を実施する上で工夫した点</p>	<p>既に開催を予定していた LC3 の設立記念フォーラムと連携したブース展示により、より多くの市民向けに情報発信を効率的に行う事ができた。 e スポーツ体験ブースにおいても「防災」をテーマとし、備蓄品等をゲームを通じて探し当てる体験と備蓄品展示なども関連付けた展示を工夫した。</p>	
<p>事業内容③ 残課題等</p>	<p>小学生～高校生といった若い世代の訪問が乏しく、世代にあった広報活動や宣伝、情報発信の行い方に工夫が必要かと思われる。</p>	

事業内容③ 体験型・多世代交流防災教育(EX)の実践		
事業内容③目標 (提供者側)	<p>コミュニティ防災教育実践に関する勉強会の開催(11/23)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそも「コミュニティ防災教育」とはどのようなものなのか？ ・その必要性や進め方など明確に理解できていない点などについて学ぶ機会を提供する ・講演のあとは「おしゃべり会」として参加者と膝を突き合わせる形での質疑応答 <p>■福祉防災コミュニティ代表理事である鍵屋一氏を招いての勉強会</p>	
事業内容③目標 (参加者側)	<p>事業内容②の目標を箇条書きで記載 ※定量、定性的に、主体にわけて具体的に記載する (例)防災教育の提供者と、参加者にわけて記載をお願いします。</p> <p>■防災教育の参加者(地域への波及効果、学生の理解度等)</p>	
事業内容③ 実施内容: 講演会&おしゃべり 会 (実施日:11/23)	<p>■具体的な取り組み内容 「コミュニティ防災教育と共生社会」と題しての講演会と講師を囲んでのおしゃべり会</p> <p>■成果(提供者) 自主防災組織の方に参加頂き、地域の現状をお聞きできた。連携を進める上で重要なネットワークができた。 大学生の参加もあり若世代との連携に可能性を見出せた。 市議や防災意識の高い人と出会った。</p>	
	<p>■成果(参加者) 実際の避難所の写真を見せて頂き、衝撃を受けた。トイレの課題や備えの大切さが理解できた。 大学生など地域コミュニティに関われないまま卒業してしまうが、より積極的に地域に関わりたと思った。 自主防災組織で活動しているが実際の避難所の状況が分かった。</p>	
事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既に予定されていた浜田市主催の防災イベントと日程が重複しており浜田市からの協力体制が不足した。 <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三階地域で実際に活動する自主防災組織から参加頂くことができた。 	
事業内容③を実施する上で工夫した点	<p>石見ケーブルビジョンに協力依頼し、告知番組において情報発信した。</p>	
事業内容③ 残課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市民の「防災」に対する意識が希薄な住民が多いという話を聞くことができた。 ・「防災」関連のイベント等の情報を必要としている人に、情報が届くルートに乗っていない。情報発信の仕方や拡散方法などに課題が残っている。 ・前日イベントからの参加者は、僅かであった。 	

事業内容③ 体験型・多世代交流防災教育(EX)の実践		
事業内容③目標 (提供者側)	<p>「逃げ地図」ワークショップの開催(12/06)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティを形成する上で、意見交換しなら楽しく作業を行う経験を共有する ・レッドゾーン、イエローゾーンを踏まえて地域の避難上の課題を客観的に見出す ・浜田市民の意識が高い「土石流災害」を対象として開催する <p>■認定逃げ地図士(1級)である金玖淑氏をファシリテータとして招いて開催</p>	
事業内容③目標 (参加者側)	<p>初対面の人と共同でワークすることで、会話し意見交換しながらコミュニティ形成に向けた礎となる出会いの場を得ることができる。</p> <p>■地域コミュニティ形成や拡大の可能性に繋がる人的ネットワークを広げる</p> <p>■ワークを通じて避難行動における課題や新たな気づきを得る</p> <p>■ワークの進め方を理解し、自身が居住する地域において活用できるよう理解を深める</p>	
事業内容③ 実施内容: 「逃げ地図」ワーク ショップ (実施日:12/06)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>避難に要する時間毎で地図上に色分けすることで、避難困難地域などを視覚的に認知するワークショップ。ワークを通じたコミュニティ形成にも寄与する。</p> <p>■成果(提供者)</p> <p>みはし地域まちづくりネットワーク会長、相生町自治会長など地域のキーマンとの繋がりが出来た。</p> <p>多様な世代の人に参加して頂き、世代を超えたコミュニティの可能性を感じることでできる機会となった。</p>	
	<p>■成果(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な方々と一緒に活動ができたこと、三階小エリアの話を、小学生を交えてできたところに意義がある。 ・参加者同士で意見を出し合いながら、楽しくワークすることでコミュニティ形成の第一歩となった。 ・班ごとにケースを分けた事で、新たな課題が生じることが分かった。 	
事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区である三階地区の住民参加が少なく、町の状況や道の現状などの情報が乏しく、ワーク内容に対応できるか課題となった。 <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みはし地域まちづくりネットワークや相生町自治会からキーマンに参加頂けたことにより、地域の課題や現状について説明してもらい、他の参加者の理解を深めることができた。 	
事業内容③を実施する上で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的な避難所などの入口の数、位置などを事前に踏査し、ワークショップの条件付与に活用した。 ・アイスブレイクとして1人30秒で全参加者向けの自己紹介を全員に行ってもらった事で、雰囲気緩和が弾みやすくなった。 ・移動速度と全避難所対象とするか一部のみ活用するかで条件を分けて、ワークを行った。最後に同じ条件の班との意見交換により気づかなかった点などの補完を行った。 	
事業内容③ 残課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織や自治会によっては、素晴らしい活動を展開しているが、地区や自治会によってはコミュニティ形成が進んでおらず、活動状況に大きな差がある事が分かった。 ・危険区域に公共の避難所等が設定されており、課題解決が可能なものであるか行政の参画が必要。 ・RC構造の建物など民間での協定などの事例を知ったが、他地域でも可能であるか。 ・孤立する地域も見られ、どの様に避難体制を作るか課題である。 	
事業内容③ 体験型・多世代交流防災教育(EX)の実践		

<p>事業内容③目標 (提供者側)</p>	<p>被災地に学ぶバスツアーの開催(12/20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「広島市豪雨災害伝承館」を訪問し、被災体験談を聞く中で参加者の「自分ごと」化を促す ・被災体験者からの体験談を聞き、同時開催のワークショップの中に生かしてもらう ・広島を経験を「石見地域で活かすには」を参加者全員で考えることが目標 <p>■発災直後から現地で支援活動していた防災士、中井佳絵氏をファシリテータとしてWSを開催</p>	
<p>事業内容③目標 (参加者側)</p>	<p>土石流被災地である広島市安佐南区にある「広島市豪雨災害伝承館」を訪問し、当時の状況を感じ、被災者の実体験を聞き、「自分ごと」として災害を捉えて今後の防災意識向上につなげていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ■現地や展示内容見学を通じて土石流災害の実態について把握・理解する ■被災体験談を通じて、「学ぶ姿勢」「日頃から備える」「早めの避難」の大切さを実感する ■ワークを通じて「石見で活かせる」取組みについて「自分ごと」として考える 	
<p>事業内容③ 実施内容： 被災地に学ぶバスツアー (実施日:12/20)</p>	<p>■具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内展示の見学+職員による説明 ・副館長である畠堀氏の体験談拝聴 ・中井氏によるワークショップを開催 <p>テーマ:「広島豪雨災害の教訓を石見地域で活かすには?」</p> <p>■成果(提供者)</p> <p>12/06開催の「逃げ地図」からのリピート参加者が多く、少人数ではあるものの「防災意識向上」に向けたコミュニティ形成の動き出しは感じる事ができた。</p>	
	<p>■成果(参加者):11名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代に渡る参加者で、日常とは違うコミュニケーションが図れたのが良かった。 ・小さな活動であっても自ら取り組める内容などが情報発信され活性化したワークショップとなった。 ・人のアイデアに投票する事で全員と情報交換できることで、コミュニティ ・班ごとにまとめた「獲得アイデア」は、浜田らしい内容にまとめる事ができた。 	
<p>事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数が少なかった。 ・バスツアーで渋滞等の影響もあり浜田への帰着が遅延した。 <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/06開催の「逃げ地図」からのリピート参加者が多く、少人数ではあるものの「防災意識向上」に向けたコミュニティ形成の動き出しは感じる事ができた。 	
<p>事業内容③を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発災直後から現地支援活動を行っていた中井氏にファシリテータをお願いした事で、施設との調整・準備や、施設職員の参画など運営をスムーズに運ぶことができた。 ・逃げ地図から体験談の内容までも踏まえて、ワークショップを組み立てたことで、「土石流災害」をテーマに一連の流れとして取り組む事ができた。 ・ワールドカフェスタイルを取り入れ、参加者全員による意見交換、情報交換に繋がり非常に活性化したワークショップとなった。 	
<p>事業内容③ 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織やまちづくりセンターによっては、すでに「広島市豪雨災害伝承館」を訪問した事があり、参加者確保に繋がらないケースがみられた(既に訪問している意識の高さは素晴らしい) ・訪問先選定の上で、これらの情報が先に入手できていればより良い検討材料となったと思われる。 	
<p>事業内容③ 体験型・多世代交流防災教育(EX)の実践</p>		

<p>事業内容③目標 (提供者側)</p>	<p>「コミュニティ防災教育ミーティング浜田 2026」の開催(01/16)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度事業での取組み内容や成果について、地域からの参加者に報告共有する ・取組み活動報告等を踏まえてアドバイザーである鍵屋一講師よりまとめの講演を行う ・クロストークとして会場一体となった意見交換、質疑応答を行う <p>■バスツアーとWSについては、ファシリテータを担当した中井佳絵氏より詳細に報告を行う</p>	
<p>事業内容③目標 (参加者側)</p>	<p>参加の有無を埋めるため、これまでの取組み経緯と内容について参加者に報告、共有する。鍵屋講師の講演を受けて、会場とのクロストークを行い、浜田のコミュニティ防災教育の在り方について議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■参加の有無に関わらず本年度の取組み内容について概ね理解してもらう ■地域のキーマンの集まりとしてコミュニティ形成の一歩としてネットワークを構築する ■地域コミュニティ形成にむけて、課題・疑問・悩みなどを情報交換、意見交換する 	
<p>事業内容③ 実施内容: 「コミュニティ防災教育ミーティング浜田 2026」 (実施日:01/16)</p>	<p>■具体的な取組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組内容について LC3 より報告 ・バスツアーとWS の内容について中井氏より報告 ・取組報告を受けて鍵屋講師よりとりまとめの講演 ・クロストーク&質疑応答 <p>■成果(提供者)</p> <p>立場や役割の異なる参加者より、それぞれの悩み、課題感、疑問点などが発信された。講師側から回答するという事よりも、会場全体の中で答えが見いだされる展開となった。取組みを通じてのリピート参加者が多く、本事業の成果として、小さいながらも感じる事ができた。</p>	
	<p>■成果(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育は継続していく必要があると思うので、せっかくながつながった縁を活かしていければ良いと思う。 ・防災教育、学習は、市民のみなさんにはなかなか認識してもらうことは大変とは思いますが、先日も地震があり安全な場所はないと思いい防災学習は本当に進めて行くべきだと思います。 ・多くの参加者より今後の継続した取組みの必要性を感じるとの声が聞こえた。 	
<p>事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が多く、席が不足する状況となった。 <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を増設し会場協で参加できる様にした。 	
<p>事業内容③を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに取り組んだ「逃げ地図」や「広島市豪雨災害伝承館」でのWSの際に使用した、模造紙やアイデアなどを書き出した用紙を会場に貼りだし、活動の一端を見てもらえる様にした。(貼り物の前で参加者同士が説明、談笑する様子なども見ることが出来た) ・鍵屋講師の講演時間を短めに設定し、クロストークとして会場参加者とのコミュニケーションの時間を多めに確保した。当初は、2~4名のグループ分けを行い、グループごとに質問・意見を発表してもらったが、後半になると個人で発言する人が多く、積極的な意見交換の場となった。 	
<p>事業内容③ 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の参加が無かった。各取組みには大学生が参加してきたが、今回は参加者がいなかった。講師や事務局の日程の都合もあるが、開催日時の設定なども工夫が必要だと思われる。 ・小・中・高校生などの参加が創出できなかった点は今後の課題のひとつと言える。 	

広報用資料

改定版

12.20 SAT

09:45-18:00

無料 定員：25名

浜田駅セブンイレブン

前集合<受付開始：09:00～>

ご予約方法：WEBサイトから申し込み
メール：m-tsuchiya@mikuniya.co.jp
電話番号：080-6705-1461（川本）

※昼食は各自でご負担下さい



『自分ごと』にして備える

被災地に学ぶ

バスツアー

広島市
豪雨災害伝承館

Hiroshima City

Torrential Rain Disaster

Memorial Center

SCHEDULE

DATE: 12/20(土)

09:00 浜田駅前のセブンイレブン付近 (予定)

09:45 浜田駅前出発 (予定)

※希望者があれば、金城、旭、瑞穂に寄ります

11:00 安佐S.Aにて休憩予定

※各自この間に昼食をお取りください。

12:00 安佐S.Aを「豪雨災害伝承館」に向け出発

13:00 「豪雨災害伝承館」着 (展示物自由見学)

13:30 ワークショップ
広島豪雨災害の教訓を石見地域で活かすには？

- 副館長・畠堀さんの体験談&質疑応答
- 「自分ごと化」して石見地域で活かすためのWS

16:00 「豪雨災害伝承館」出発・帰路

※希望者があれば、金城、旭、瑞穂に寄ります

注意事項

- スケジュールは変更となる場合があります
- 昼食は安佐S.Aにて各自でお願いいたします
- 交通事情により遅れが生じる事があります
- 必要なモノは各自ご用意ください

※予めご了承ください

ファシリテーター
紹介

防災士

ボウジョレーヌプロジェクト

代表 中井佳絵さん

(なかい よしえ)

令和7年度内閣府「コミュニティ防災教育推進事業」採択事業報告会&講演会

コミュニティ防災教育ミーティング 浜田2026

今年度事業で取り組んだ実績について報告します。実際に参加した方々の声もお届けしながら、石見地域でいかに「自分ごと」として受け止め、地域コミュニティを形成しながら防災力向上につなげていくのか考えます。

後半は講師を交えてクロストークセッションを行います。会場一体となった意見交換により地域に密着した具体的な活動などについて深掘りしましょう。

学生、ご家族連れなどどなたでもお気軽にご参加ください！

日時

2026年

1月16日(金)

18:30 ~ (18:00開場)

会場

石央文化ホール 3階
301会議室

申込不要(会場に直接お越しください)

講師

鍵屋 一

本事業アドバイザー
一般社団法人福祉防災コミュニティ協会
代表理事

リスクを知ること、過去の被災から学ぶことはとても大切です。そこから学んで自らの「行動変容」にどうつなげるかが重要です。一緒に考えていきましょう。

お問い合わせはお電話もしくはメールから

☎ 0855-25-0151

✉ info@lc3.biz

協議会HPはこちら↓



主催：一般社団法人石見地域循環共生協議会

裏も見てね

プログラム

- | | | |
|---|---|-------|
| 1 | オープニング | 18:30 |
| 2 | 今年度実績報告 | 18:40 |
| 1 | デジタル防災 (DX) アナログ地図からデジタルへ 逃げ地図づくりの現場から | |
| 2 | エネルギー自立・減災 (GX) 停電しても消えない明かりを 地域エネルギーの活用 | |
| 3 | 体験型・多世代交流防災 (EX) 楽しみながら学ぶ eスポーツ×防災の可能性 | |
| 4 | 広島市豪雨災害伝承館バスツアー&ワークショップ
「広島豪雨災害の教訓を石見地域で活かすには？」(報告:ファシリテータ 中井佳絵氏) | |
| 3 | 基調講演
演題:「コミュニティ防災教育による地域防災力向上に向けて」
講師:鍵屋 一氏 | 19:10 |
| 4 | 会場参加型 クロストーク&質疑応答
「行政と民間はどう連携すべき?」「若者を巻き込むには?」……
鍵屋講師と実践メンバーが、会場の皆様の質問に答えます | 19:40 |
| 5 | 閉会 | 20:30 |

登壇者の紹介

鍵屋 一 かぎや はじめ

跡見学園女子大学
観光コミュニティ学部 教授
(一社)福祉防災コミュニティ協会代表理事

板橋区役所にて防災課長等を歴任。
内閣府「被災者支援のあり方検討会」座長
などを務める、福祉防災と地域コミュニティ形成のスペシャリスト。現場の実践に基づいた分かりやすい解説に定評がある。

中井佳絵 なかい よしえ

防災士、フリーアナウンサー
ボウジョレーヌプロジェクト代表

法政大学大学院にて政策学修士号取得。
「防災減災を分かりやすく伝える講師」
として活動し、「事前の備えがいかに大切か」を参加者とコミュニケーションを大事にしながら伝えている。

「被災地に学ぶバスツアー」ワークショップ 投影資料

(12月20日 開催)

一般社団法人石見地域循環共生協議会 コミュニティ防災教育推進事業
広島市豪雨災害伝承館視察

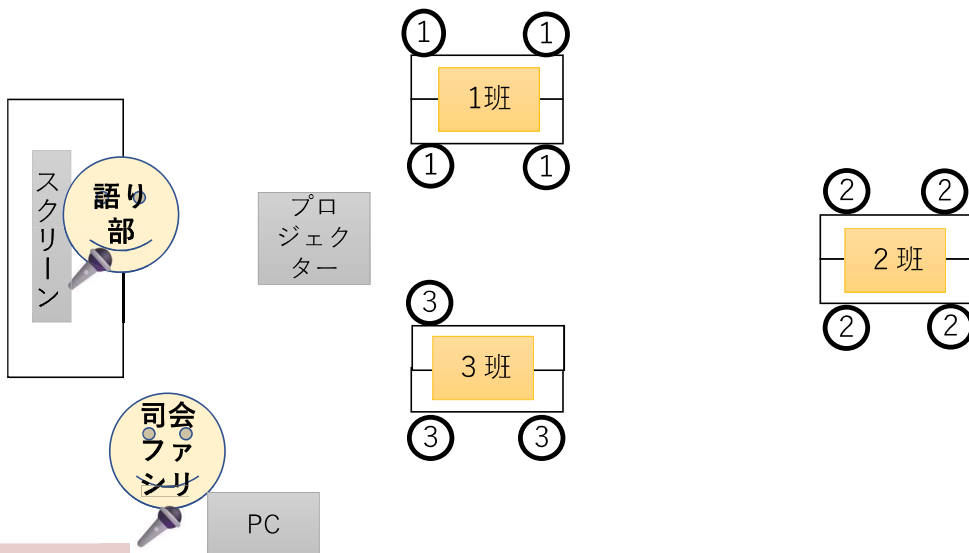
『広島豪雨災害の教訓を 石見地域で活かすには?』

2025/12/20
ボウジョレーヌプロジェクト
中井佳絵

BRP ボウジョレーヌプロジェクト

1

研修室レイアウト: 11人の場合

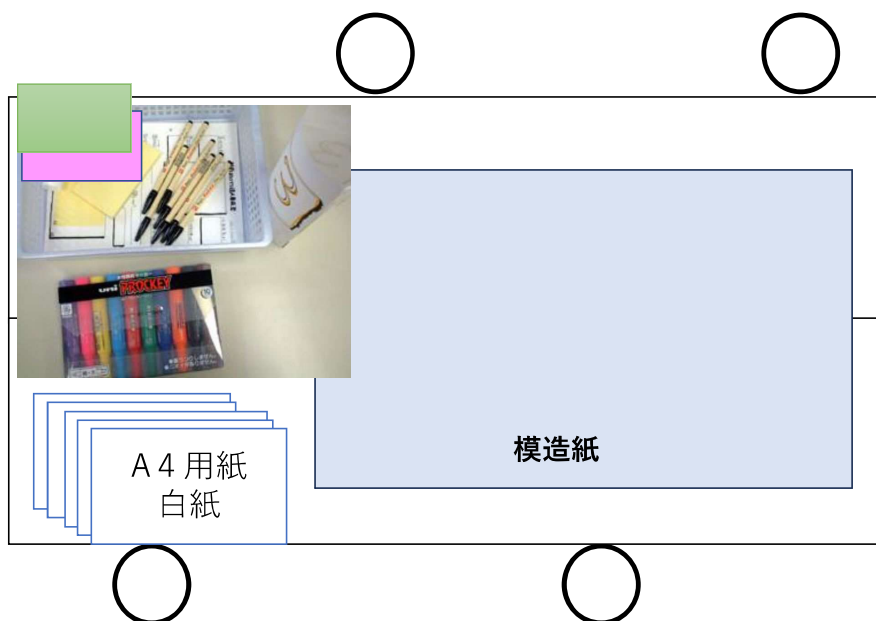


BRP ボウジョレーヌプロジェクト

©BRPボウジョレーヌプロジェクト ALL RIGHTS RESERVED

2

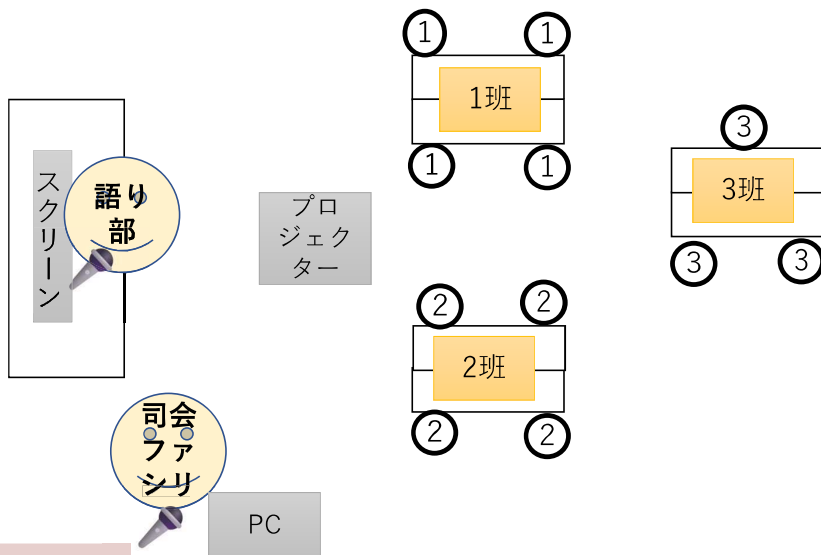
各テーブル配布物の例



WS準備物

	準備物	数量	担当	☑
1	プロジェクター(HDMI端子)	1つ	伝承館	
2	スクリーン	1つ	伝承館	
3	マイク	2つ(語り部・司会)	伝承館	
4	テーブルと椅子	班数と参加者数	伝承館	
5	PC	WS資料投影用	中井	
6	大きめの付箋(ポストイット)	3色×20枚×参加者数	LC3	
7	サインペン(黒・水性)	参加人数分	LC3	
8	プロッキー(もしあれば)	3セット(1セット×3班)	LC3	
9	模造紙	班数分	LC3	
10	アイデア記入用紙(A4)	参加人数分 + α(班名用)	LC3	

指定の席にお座り下さい



最初の班	氏名
1	村木勝也
1	長谷川真美
1	松本涼佑
1	河上晴夫
2	原井 直美
2	佐々木英起
2	榎
2	石橋憲太郎
3	土屋正隆
3	鳥本則男
3	齋藤めぐみ

ワールドカフェスケジュール

- 13:30～①スケジュール案内・浜田の豪雨リスクの説明・語り部紹介(15分)
- 13:45～②副館長・畠堀さんの体験談&質疑応答
- 14:25～③ワールド・カフェ進め方の説明
- 14:30～④体験談を聴いての教訓や気がかりな点をポストイットに記入(10分)
- 14:40～⑤自己紹介→1ラウンド目の意見交換『感想や心配な点』(10分)
- 14:50～⑥移動 一人が残り(カフェマスター)、他の3人はバラバラに移動する
- 14:55～⑦2ラウンド目の意見交換『石見地区に活かせる取組&アイデア』(20分)
- 15:15～⑧移動 一人が残り(カフェマスター)、他の3人は元のグループに戻る
- 15:20～⑨3ラウンド目『アイデア深堀』&収穫『一人一人ができること』(15分)
- 15:45～⑩アイデア投票&まとめ(15分)
- 16:00 終了予定



自然災害とは？

ごうう 豪雨
ごうずい 洪水

ほうふう 暴風

たかしお 高潮

ごうせつ 豪雪

じしん 地震
つなみ 津波

その他^{ふんか} 火山の噴火
など

自然災害とは？

ごうう 豪雨
ごうずい 洪水

ほうふう 暴風

たかしお 高潮

ごうせつ 豪雪

異常な自然の現象による
被害（ひがい）があった
場合に自然災害というよ

3つが重なると自然災害



浜田市：地形の成り立ちと自然災害リスク

重ねるハザードマップ ~自由にリスク情報を調べる~

例：茨城県つくば市北郷1 / 国土地理院

選択中の情報

災害種別で選択

- 洪水・内水 (想定最大規模)
- 土砂災害 (想定最大規模)
- 高潮 (想定最大規模)
- 津波 (想定最大規模)
- 道路防災 (想定最大規模)

掲載データに関する情報

砂丘

- 風によって運ばれた砂が小高く堆積してできた地形。
- 周縁部や、周囲よりも低い場所では、**液状化**に注意。地震時に揺れやすい。

山地

- 起伏が大きな尾根と谷からなる地形。
- 土砂災害**に注意。

丘陵・小起伏地

- 起伏が小さな尾根と谷からなる地形。
- 土砂災害**に注意。

低地

- 河川や海の流によって運ばれた砂礫や泥が堆積してできた平坦地。または、その流れの侵食によってできた平坦地。
- 河川氾濫、高潮、**液状化**に注意。地震時に揺れやすい。

出所)重ねるハザードマップ (gsi.go.jp)

浜田市：土地の特徴：土砂災害警戒区域が多い

重ねるハザードマップ ~自由にリスク情報を調べる~

浜田市

選択中の情報

災害種別で選択

- 洪水・内水 (想定最大規模)
- 土砂災害 (想定最大規模)
- 津波 (想定最大規模)
- 道路防災情報 (想定最大規模)

土石流

地すべり

急傾斜地の崩壊

	指定済	指定予定
特別警戒区域		
警戒区域		

	指定済	指定予定
特別警戒区域		
警戒区域		

出所)重ねるハザードマップ (gsi.go.jp)

浜田市役所周辺:土地の特徴:土砂災害警戒区域が多い



13

浜田市旭:土地の特徴:山側は土砂災害だけではない



14

ハザードマップの留意点

- ・ 災害が起きる範囲を示す色や線はあくまでも目安。
- ・ 危ないのは着色してある想定区域や線の
内側だけではない。
つまり、線の外側や色の着いてない所で
災害が起きることもある。
- ・ 一つの避難所・避難場所がすべての災害において
安全とは限らないことに注意しよう。

15

©BRPポウジョレーヌプロジェクト ALL RIGHTS RESERVED

畠堀さんの体験談を聴くポイント

1. お話は石見地区にも多くある土砂災害警戒区域内で実際に起きた被害や復興プロセスです。
2. 石見地区で同じような状況になったら、
自分は適切に避難できそうですか？
3. 石見地区で同じような状況になったら、
近所や地域の方々と共に助け合える体制はできていますか？
4. 畠堀さんの体験や実施した取り組みから、
浜田市で今後取り入れられそうなコトは？
5. 石見地区で取り入れる際に、
考慮すると良いコトは？

16

©BRPポウジョレーヌプロジェクト ALL RIGHTS RESERVED

体験談で感じたことをメモしておこう

【黄色ポストイット】

- ・感想、心配 & 気がかりな点

例) 浜田で同じような
災害が起きたら
避難できるか不安

【青色ポストイット】

- ・石見地区に活かせそうな取組
- ・地域防災力向上アイデア

例) 普段から
地域で活動する

※黒のサインペンで書いて下さい。

※1枚のポストイットは、1行に10文字程度×4行までで収めて下さい。

①ワールド・カフェとは？

会議室で日々繰り返される機能的な会議よりも、
「カフェ」で行うような、
オープンで自由な会話を通してこそ、
活き活きとした意見の交換や、
新たな発想の誕生が期待できる、
という考え方に基づいた話合いの手法

①7つのカフェチケット

- ①対等な立場でお話しましょう♪
- ②相手の話に耳を傾けましょう👂
- ③話は短く簡潔にしましょう！！
- ④あなたの考えを積極的に話しましょう📣
- ⑤テーマに集中しましょう🌟
- ⑥アイデアをつなぎ合わせみましょう🌸
- ⑦絵やイラストも描いてみましょう😊

①意見交換の流れ



② 体験談で感じたことを書いてみよう(10分)

【黄色ポストイット】

- ・感想、心配&気がかりな点

例)浜田で同じような
災害が起きたら
避難できるか不安

【青色ポストイット】

- ・石見地区に活かそうな取組
- ・地域防災力向上アイデア

例)普段から
地域で活動する

※黒のサインペンで書いて下さい。

※1枚のポストイットは、1行に10文字程度×4行までで収めて下さい。

③ 1ラウンド目の意見交換(10分)

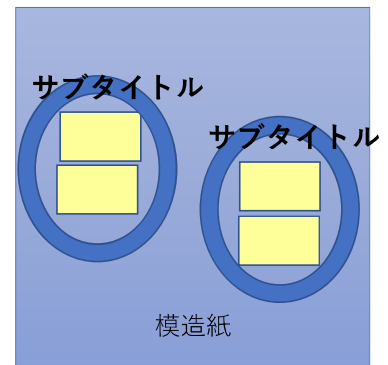
【話合いのテーマ】



黄色ポストイットに記入した
『感想や心配な点について』

③ 1ラウンド目の意見交換(10分)

- ・自己紹介(名前と好きな味噌汁の具)
- ・事前に記入した黄色ポストイット3~5枚を厳選し1人1~2分で気づいたことを、模造紙に貼りながら話しましょう。
- ・約3分で似たような事をグルーピングして下さい。
- ・グルーピングしたものを線で囲ってサブタイトルを付けましょう。



- ※一人が話しているときは、他の人は批判なしで聞きましょう。
- ※話す時間はできるだけ平等にしましょう。

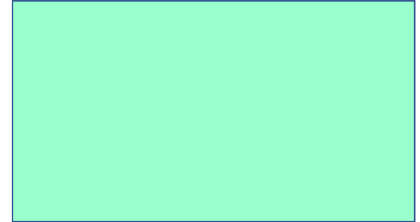
④ 移動

カフェマスター1人が残り、

他の3人はバラバラに移動しましょう。

⑤2ラウンド目の意見交換(20分)

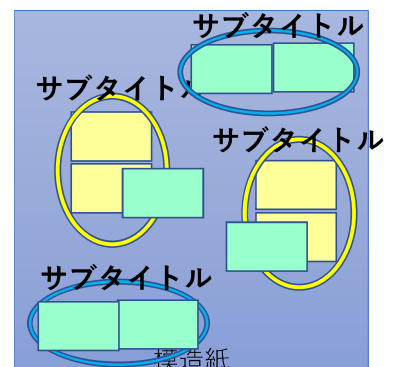
【話し合いのテーマ】



青ポストイットに記入した
『石見地区に活かせそうな取組や
防災力を高めるためのアイデア』

⑤2ラウンド目の意見交換(15分)

- 自己紹介(名前&この1週間で嬉しかった事)
 - カフェマスターが、1ラウンド目の内容を説明。
 - 新たなテーマ「活かせそうな取組やアイデア」等について、事前に記入した青色ポストイット3~5枚を厳選し模造紙に貼りながら、1人約1~2分で気づいたことを話しましょう。
 - 1回目のグルーピングに関連していれば、そこに貼って下さい。
 - 他のカテゴリーであれば、新たなサブタイトルを付けましょう。
- ※話す時間は平等に。話している相手を批判しないでね。



⑥移動

最初のテーブルに戻りましょう。

今度は**進行役**と**書記**を決めて下さい。

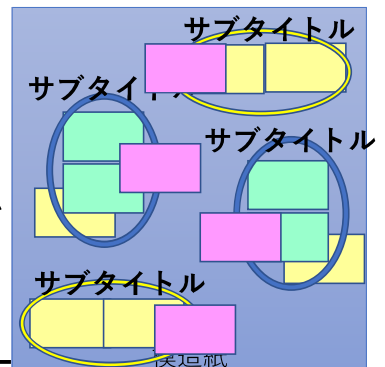
⑦3ラウンド目の意見交換(10分)

【アイデアの共有】

他の班で意見交換した
取組やアイデアを
持ち寄りましょう！

⑦3ラウンド目の意見交換(10分)

- カフェマスターが、1分で2ラウンド目の内容を説明。
- 新たに進行役と書記役を決めて下さい。
- 進行役が、他のメンバーから他のグループで意見交換したアイデアを聞き出し最後に自分のアイデアを伝えましょう。
- 進行役は、1人約1分を計りながら仕切ります。
- **新たに出たアイデア**は、書記役が**赤色ポストイット**に記入しながら、関連するサブタイトルに貼って下さい。



⑦ポストイットの記入例

【赤色ポストイット】新たにでたアイデアや取組

例)顔の見える関係

- ※**黒のサインペン**で書いて下さい。
- ※1枚のポストイットは、**1行に10文字程度×4行まで**で収めて下さい。

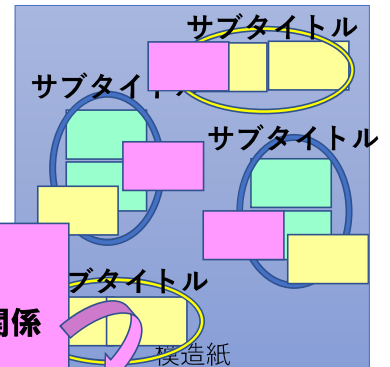
⑦意見交換の収穫(5分)

「豪雨災害に備えて自分ができること」
を意見交換したアイデアの中から選び、
A4用紙を横にして

具体的に書いてください。

・1人1枚担当しましょう！

※イラストや絵も挿入してみてください😊



例)
顔の見える関係

<例>
毎日近所の人と挨拶し、
地域行事に参加するなど
普段から顔の見える
関係を築いておく😊

31

©BRPポウジョレーヌプロジェクト ALL RIGHTS RESERVED

⑦収穫アイデアの記入方法

【A4用紙横書き】

このあと
他の班が
見て投票。

読みやすい
字で(_ -)☆

<例> ○班
毎日近所の人と挨拶し、
地域行事に参加するなど
普段から
顔の見える関係を
築いておく😊

班の番号を
必ず記入。

絵や図を
入れてみて！

32

©BRPポウジョレーヌプロジェクト ALL RIGHTS RESERVED

⑧意見の共有と投票

- アイディアを書いた用紙を、他の人が見やすいようにテーブルに並べて下さい。
 - **色ペンを手に**、他のテーブルのアイディアを見て回りましょう。
 - これは良い！と思うアイディアに丸をして下さい。
(**複数に丸してOK**)
 - 回り終わったら各自休憩して下さい。
- ※自分のアイディアには丸をしないでください。**

⑧投票の方法

【班ごとのアイディア配置例】

<p>◎ >お2い遊 顔の見える関係を 普段から 地域行事に参加するなど 毎日近所の人と挨拶し、 <例>1班</p>	<p>○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ 班1<例></p>
<p><例>1班</p> <p>●</p> <p>○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○</p>	<p>●● <例>1班</p> <p>○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○</p>

**1枚につき
1人1丸
ですが、
良いアイディ
アと思ったら、
全アイディア
に丸して
OK!**

⑨ファシリテータまとめ(5分)

- 投票の多かったアイデアについて。
- 投票は少なくともレベルの高いアイデアやユニークなアイデアをファシリテータから発表。
- 各グループのアイデアは、「石見の知恵袋」としてストック。
- お友達・親せき・会社の同僚などへも是非伝えてみて下さいね。

終了

ご参加有難うございました
(*^▽^*)

一緒に災害の被害軽減に

取り組んでいきましょうね♡

**「コミュニティ防災教育ミーティング浜田 2026」
投影資料
(講師:鍵屋一氏)**

(1月16日 開催)

コミュニティ防災教育による 地域防災力向上に向けて

主催：石見地域循環共生協議会

(令和7年度 内閣府モデル事業)

2026年1月16日(金)

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科

内閣府 被災者支援のあり方検討会座長

(一社) 福祉防災コミュニティ協会代表理事

鍵屋 一

能登半島地震

2024年1月1日 M7.6

地震、津波による死者697名

(うち災害関連死469名)

(出典：北陸放送2025年12月13日現在)

死因の多くは、**住宅の下敷き**

と高齢者等の**災害関連死**

※**最重要な政策とは**

⇒**住宅耐震化(+避難支援)**

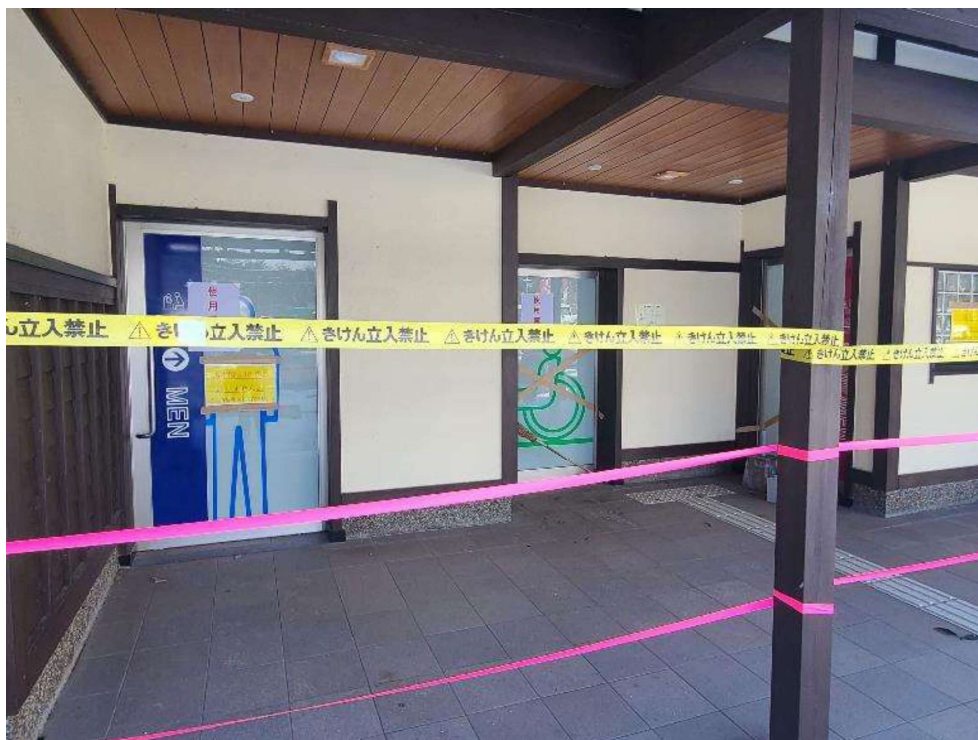
⇒**高齢者等の避難生活支援**



1月4日 金沢市
震災がつなぐ全国ネットワーク 松山文紀氏提供



1月15日 珠州市
震災がつなぐ全国ネットワーク 松山文紀氏提供



七尾市 道の駅 立入禁止のトイレ

2024年1月24日 鍵屋撮影



穴水駅前 仮設トイレ！

2024年1月24日 鍵屋撮影



輪島市 朝市通りの火災現場

2024年1月24日 鍵屋撮影

トイレ不足と栄養不足

リスク1：体力・免疫機能低下により感染症にかかりやすい。

リスク2：誤嚥性肺炎、エコノミックラズ症候群にかかりやすい

リスク3：イライラしてもめごと、犯罪が多くなる

災害関連死の経緯・認定理由(輪島市)

輪島市災害弔慰金等認定審査会の審査結果(令和6年5月14日)

年齢	性別	経緯・認定理由
90代	女性	避難所で新型コロナウイルス感染症に感染した結果、うっ血性心不全のため死亡。災害と死亡の間に相当因果関係が認められた。
80代	女性	近隣のビニールハウスに避難しており、トイレが使用できないため近くの畑へ行き転倒、自力で動けない状態となり、低体温症のため死亡。災害と死亡の間に相当因果関係が認められた。
80代	男性	介護老人保健施設で被災。施設が停電、断水する状況の中、発熱と呼吸困難(肺炎)のため病院へ搬送。被災地の病院では治療困難なため転院したが、細菌性肺炎のため死亡。災害と死亡の間に相当因果関係が認められた。
70代	女性	震災後の避難所生活や水分の補給不足、薬の不足、睡眠不足、運動不足、転居など生活環境の激変により心身に相当の負荷が生じた結果、急性心筋梗塞のため死亡。災害と死亡の間に相当因果関係が認められた。
80代	男性	自宅で被災し近隣の自主避難所に避難したが、停電により暖房が使用できず翌日帰宅。その後体調不良、発熱により入院したが、肺炎のため死亡。災害と死亡の間に相当因果関係が認められた。

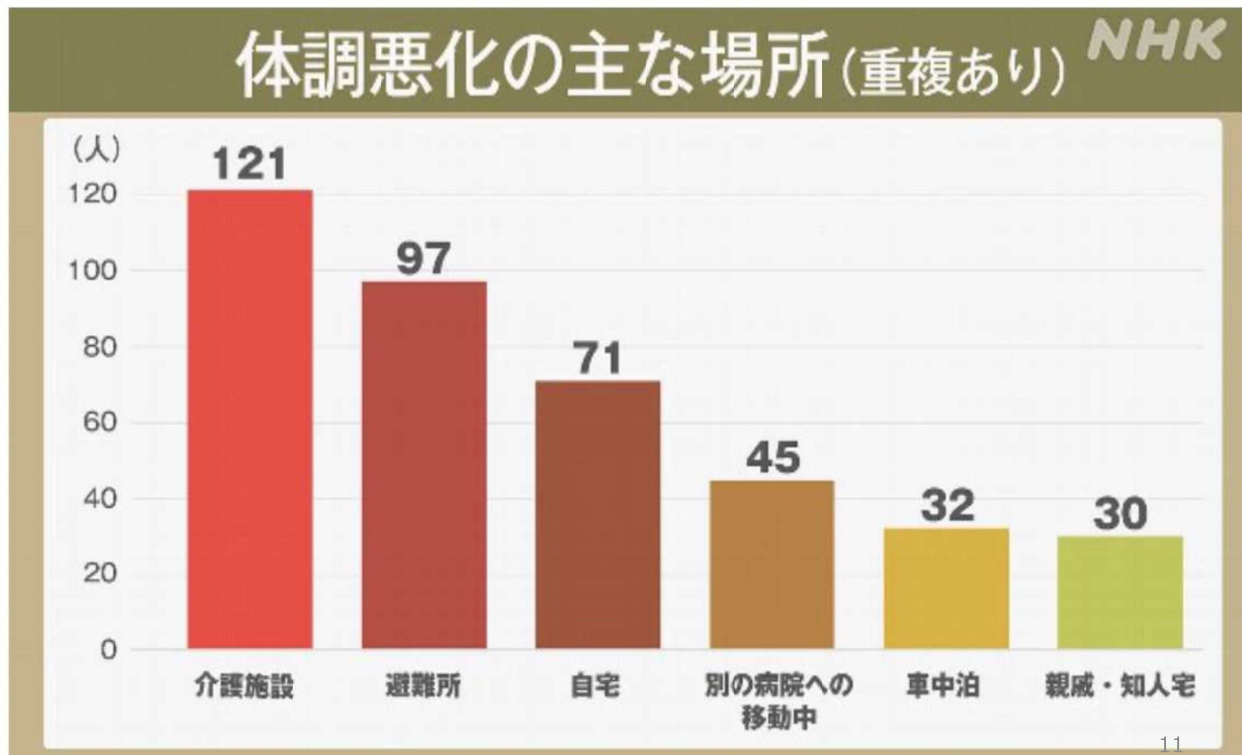
能登半島地震関連死の状況例

・80代女性

近くの**ビニールハウス**に**避難**しており、**トイレ**が**使用**できないため、近くの畑に行き**転倒**。自力で動けない状態となり、**低体温症**のため**死亡**。

能登半島地震の関連死者で体調悪化した場所

出典：NHKニュースWEB2025年7月1日 17時16分



○災害用トイレを1回分でも備蓄している人は22.2%

○4日分以上備蓄している人は**4.6%**

○備蓄しない理由は「特にない」が45%

災害被害の方程式

自然の外力

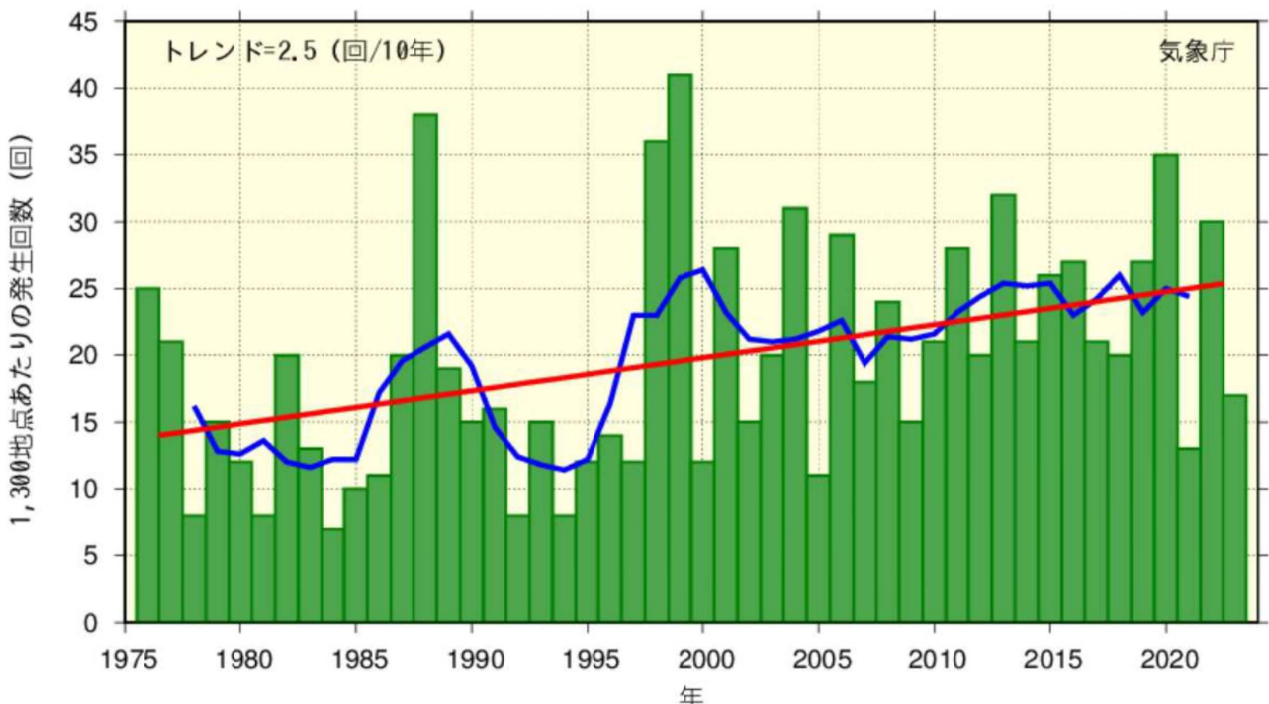
×人口(被害を受ける範囲)

×社会の脆弱性

降水量は増えている

1時間降水量80mm以上、日降水量300mm以上など強い雨は、1980年頃と比較して、おおむね2倍程度に頻度が増加(気象庁HP)

[全国アメダス] 1時間降水量80mm以上の年間発生回数



重ねるハザードマップで災害危険度を調べましょう！（浜田市）洪水・津波が怖い

重ねるハザードマップ 浜田市

選択中の情報

災害種別で選択

- 洪水・内水 (想定最大規模)
- 土砂災害 (想定最大規模)
- 高潮 (想定最大規模)
- 津波 (想定最大規模)
- 道路防災情報
- 地形分類

掲載データに関する留意事項

すべての情報から選択

選択情報のリセット

指定緊急避難場所

洪水

解説 凡例

島根県浜田市殿町

この付近では、最悪の場合、洪水による浸水が発生してその深さが50センチメートルから3メートルになることが想定されています。これは床上浸水に相当する深さです。

また、この付近は河川からあふれた水の流れにより、木造住宅などが倒壊する危険性のある場所です。水害発生のおそれがある場合には、浸水が想定されない場所へ早期に立退き避難する必要があります。避難場所や避難経路などについてはお住まいの地域のハザードマップをご確認ください。

この付近では、最悪の場合、津波による浸水が発生してその深さが30センチメートル未満になることが想定されています。これは床下浸水に相当する深さです。津波発生のおそれがある場合には、浸水が想定されない場所へ直ちに立退き避難する必要があります。避難場所や避難経路などについてはお住まいの地域のハザードマップをご確認ください。

浜田市のハザードマップを見る

⚠️ 選択した地点とその周辺で最も危険な災害リスク情報を表示しています。また、掲載情報は今後更新される可能性があります。詳細は注意事項をご確認ください。

[住所検索に戻る](#) [ホームへ戻る](#)

下府町

下府駅

20m~

10~20m

5.0~10m 2階の屋根以上が浸水する

3.0~5.0m 2階部分まで浸水する程度

0.5~3.0m 1階天井まで浸水する程度

0.0~0.5m 大人の膝までつかる程度

重ねるハザードマップで災害危険度を調べましょう！（浜田市）洪水・津波が怖い

重ねるハザードマップ 浜田市

外ノ浦町

万寿町

長沢町

浜田 I C

高佐町

岡口

上ヶ山

道前

原井町

野原町

原井 I C

生 I C

20m~

10~20m

5.0~10m 2階の屋根以上が浸水する

3.0~5.0m 2階部分まで浸水する程度

0.5~3.0m 1階天井まで浸水する程度

0.0~0.5m 大人の膝までつかる程度

重ねるハザードマップ（洪水・津波）

浜田市 神社・お寺は安全な場所に！



○なぜ、人は備えないのか？
(逃げ遅れるのか？)

○なぜ、行政、福祉、企業等の災害対策の優先順位は低いのか？

正常化の偏見

「自分は大丈夫！」

…自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価してしまう人間の特性

ex)逃げない非常ベル
⇒初着のリスク情報の無視

大地震発生直後、あなたは家族と家にいました。何をしますか？

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

コミュニティ防災教育の項目(例)

自助

- ◎地域の災害リスク把握
- ◎安全な避難場所、避難方法
- ◎在宅避難生活の準備

共助

- 避難連絡・誘導の方法
- 避難所の運営ルール
- 事前復興など

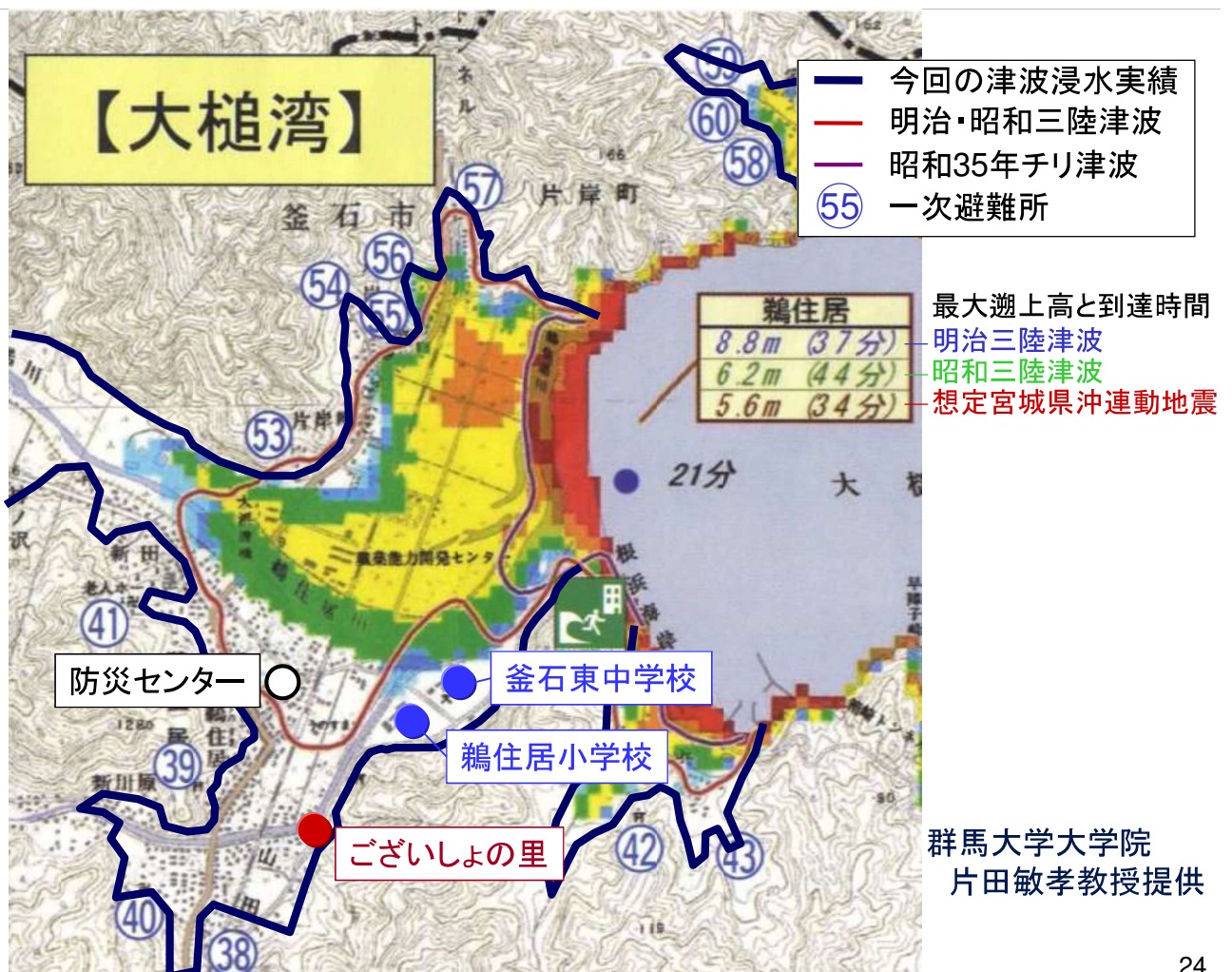
【 率先避難者たれ 】

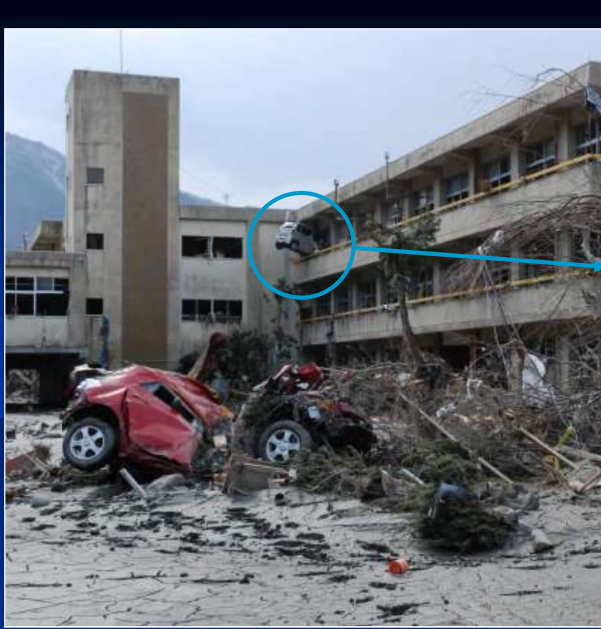
- ・正常化の偏見※を打ち破る
- ・同調性バイアスでみんなを巻き込む

※正常化の偏見 「自分は大丈夫」

……自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価してしまう人間の特性

ex)逃げない非常ベル……初着のリスク情報の無視





鵜住居小学校

群馬大学大学院 片田敏孝教授提供



(津波襲来直前に鵜住居地区住民が撮影)

群馬大学大学院 片田敏孝教授提供



釜石東中学校 村上陽子副校長提供

**敵は「自然」ではなく、
「正常化の偏見」である。**

- ◆コミュニティ防災教育は、こども、住民と行政の「**正常化の偏見**」の克服を目指す。
- ◆人には誰でも「**自然**」や**モノゴトを甘く見たい**という心理が働き、それが逃げ遅れや災害への備えの不十分さにつながる。

岩手県大槌町安渡地区

- ・ 予め町内会に登録している(一定の自助活動を行っている)要配慮者を対象とする
- ・ 要配慮者の家族は、移動に必要な準備や避難訓練に参加する
- ・ 地震時に家族は要配慮者を玄関先まで出す
- ・ 車避難は要配慮者との同伴避難のみ認める
(出典:大槌町安渡地区地区防災計画)

味方は「愛」と
「科学」である。

◆コミュニティ防災教育は、地域住民の命、尊厳、暮らしを守り、地域を守りたいという「愛」によって魂が吹き込まれる。

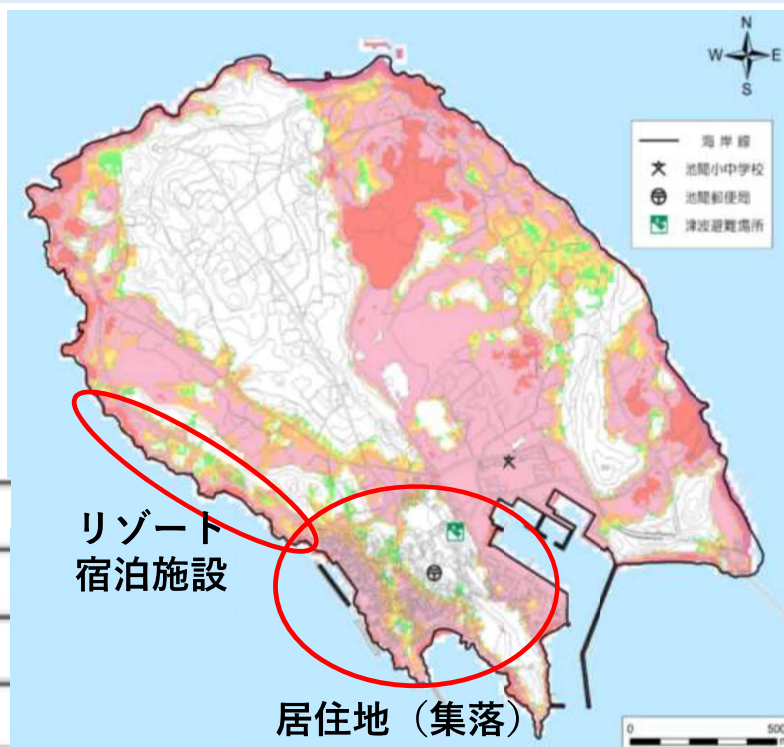
◆愛あればこそ、正常化の偏見を排する努力をして「科学」的に学び、正しく活かすことができる。

池間島の災害リスク・課題

<災害リスク>

- 居住エリアの大半で
~5mの浸水が予測されている
- 島内は標高が低く、
高いところが少ない
- 明和の大津波から

	2.0m 以上 5.0m未満
	1.0m 以上 2.0m未満
	0.3m 以上 1.0m未満
	0.01m 以上 0.3m未満



わが家の津波避難ルールを決めよう

池間地区は地震後35分で
第1波到達、最大遡上高17.3
メートルの津波の可能性

家を出るまで〇〇分

避難場所まで、歩いて〇〇分

避難場所はどこ？

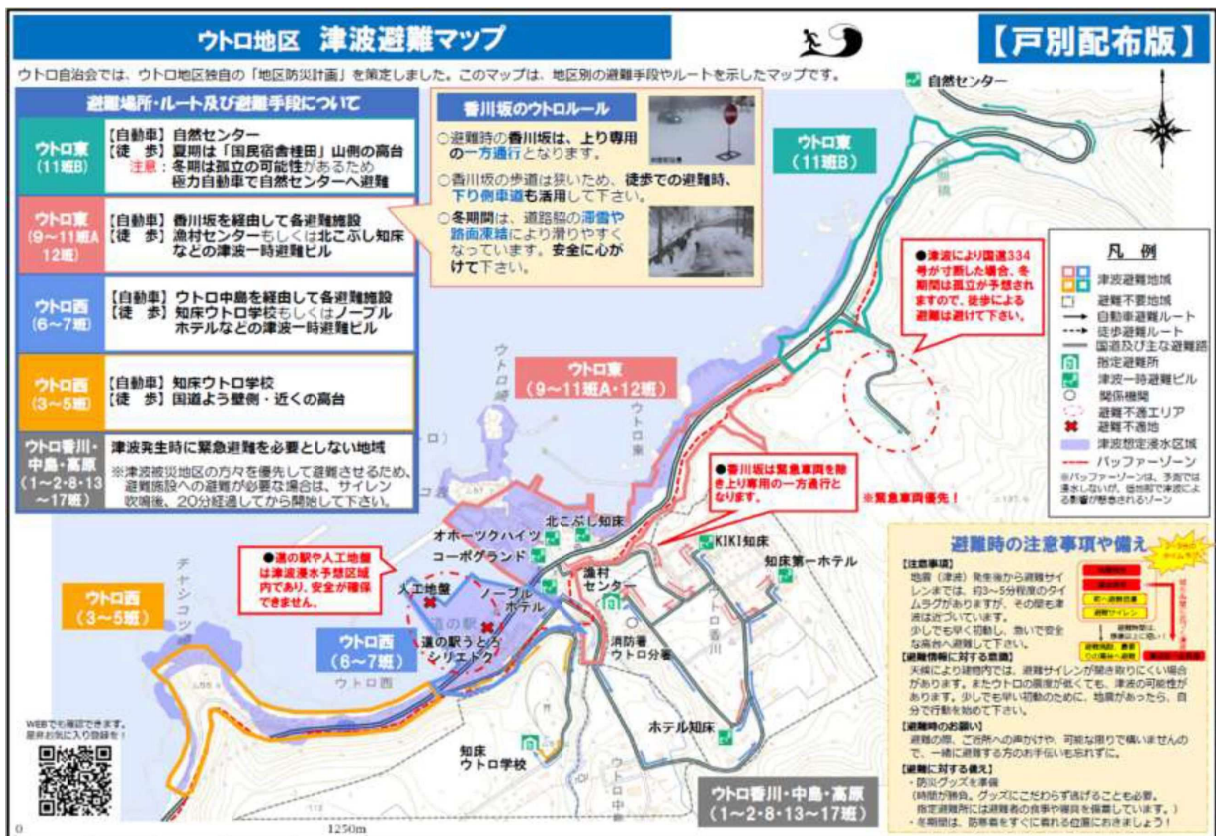
避難路の危険なところは？

次の訓練で確認しましょう！

戦略は「多様性」と「つながり」である。

- ◆コミュニティ防災教育は、自治会役員だけでなく女性、こども、障がい者、移住者、観光客など「**多様性**」を歓迎し、大事にする。
- ◆多様な人の多くの「**つながり**」は、地域「**も**」防災「**も**」、そのパフォーマンスを良くする。

津波警報が出たら山への道は一方通行！ 知床ウトロ地区



知床ウトロ地区 自助の備え、避難訓練、津波避難灯台



ウトロ西地区に、自治会と関係団体が協力して津波一時避難場所を設置。

津波避難灯台(みちほたる)

ウトロトンネル ウトロ側坑口上部

- 自治会では、平成30年度からウトロ地区の地区防災計画策定に取り組み、避難マップや避難計画の策定を進めてきました。
- 避難場所が無かったウトロ西地区の一時避難場所として、ウトロトンネルの坑口上部のスペースを選定し、令和元年9月28日にウトロ自治会や行政、地元企業が協力して安全施設等の整備を実施しました。
- 一時避難場所には、夜間でも灯台の様に点滅し、避難先を知らせる「津波避難灯台」を全国で初めて設置するなどの工夫をしました。
- 今後、案内看板など必要な設備を検討し、整備に向けて取り組みます。



戦術は「楽しさ」と「道具」である。

- ◆コミュニティ防災教育は、継続が大事なので、「**楽しさ**」で長続きさせることが大切である。
- ◆こどもは飽きやすい！防災教育に使える「道具」を工夫する。
DX,GX,EX、被災地見学、ワークショップ、避難生活体験・・・

平成30年7月豪雨災害（西日本豪雨災害）



家屋の被災状況(左:府中市木野山町/右:三原市木原6丁目)



河川の破堤状況(野呂川水系中畑川)



河川氾濫による浸水状況(三原市本郷町)

平成30年7月豪雨災害被災写真(広島県砂防課・河川課提供)

平成30年7月豪雨 避難実態調査（広島県）

○避難した人：全体の29%程度

【避難しなかった理由】

「自分は大丈夫だと思っていた」、「一人では避難を決められなかった」、「周囲の人が誰も避難していなかった」

【避難した理由】

「隣の人が避難するのを見たから」、「友人から避難を呼びかけられたから」、「いつ避難すべきか迷っていたら近所の人が声をかけてくれたから」

目的は行動変容！

◆家具固定、災害トイレの備蓄、家族の話し合い、避難訓練、ご近所付き合い→**大事だとは思っているが、できない、やらない・・・**

◆コミュニティ防災教育は、こどもと親世代と地域住民と一緒に考え、行動することで行動変容を進める。
→**大切な人を守るため！**

【訓練】百考は一行に如かず 「漢書」趙充国伝

震災前に津波避難訓練に参加経験が「ある者」では「ない者」に比べて、避難したオッズ比が 1.99 倍高く、津波浸水域内にいた場合はさらにオッズ比が**3.46 倍高い**。

一方で、地震避難訓練、地震や津波に関する防災の講義への参加、地震・津波に関する話を聞いた経験は避難行動に統計学的に有意な影響を与えていない。

(中谷直樹「津波避難訓練が避難行動に与える効果」埼玉県立大学地域産学連携センター2019年度WEB講座)

95歳の夫と86歳の妻の避難

2022年10月29日 酒田市総合防災訓練



防災訓練が大事！だけど・・・

・町内会・自治会役員

訓練は、避難、AED、初期消火、
応急救護、避難所開設、炊き出し・・・準備も片付けも大変！

・高齢者、障がい者等

訓練会場で居場所がない、つまらない・・・行きたくない！

ひなんさんぽ

岡崎市



【実施までの流れ】

個別避難計画を作成



要支援者の体調などを確認



天気予報を確認



日程調整



ひなんさんぽ実施



訓練が終わったら、振り返り

訓練結果を**当事者、保護者、**
地域住民・民生委員と医療や
福祉関係者、自治体職員が
振り返りをして、**個別避難計画**
の作成へ！

※美味しい和菓子も(^_-)-☆

⇒当事者、地域、福祉がつながる

被災後「も」、不便だが
不幸ではないひと、くら
し、まちを目指す！

- ・どの程度の不便さなら我慢できるか？
- ・何が不幸で、何が幸福か？

出典：高知市下知地区防災計画

孤独なボウリング

R・パットナム（米国政治学会元会長）

ボウリングする人の数は減っていないが、
みんなでする人は減り、一人が増えた！

◎アメリカの組織社会への参加率

以前のアメリカは市民の「つながり」が強かった。そのつながりが幸福な暮らしと民主主義を支えてきた。

1960年頃は30%⇒2000年頃は10%

⇒治安が悪化し、格差が大きくなり、社会の効率が悪くなった

決め手は「ご近所力」

◎社会関係資本 Social Capital

人や地域のつながり＝信頼の絆＝ご近所力

社会関係資本は、人々を賢く、健康で、安全で、豊かにし、公正で安定した民主主義を可能とする。

※「ご近所力」は付加的価値ではない

※「ご近所力」こそが、安心安全の源泉

人生を幸せにするのは何？

ロバート・ウォールディング「心理学者、ハーバード成人発達研究4代目リーダー」最も長期に渡る幸福の研究から 出典:TED.com(2016年2月2日)

- ・75年間724人の男性を追跡し 休むことなく 仕事や家庭生活 健康などを記録
- ・1番目のグループはハーバード大学の2年生
- ・2番目のグループは極貧環境で 育った少年達

人を健康で幸福にする
のは **良い〇〇〇〇**に
尽きる

これからの防災は？

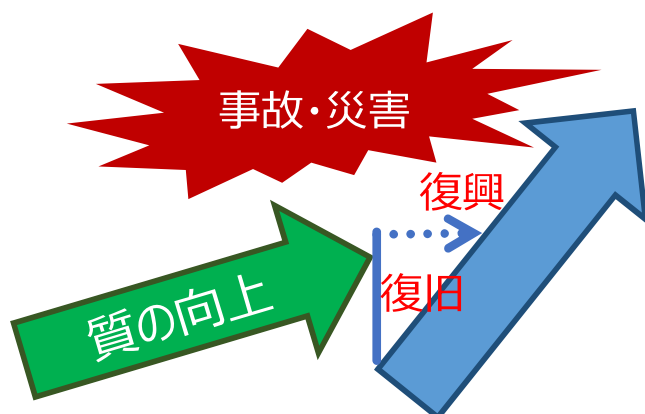
損失を減らす防災から、

「価値向上型」の防災へ

日常から人間関係、近所関係を
良好にし、**誰一人取り残さない魅
力ある地域社会 = 地域共生社
会を作る**

⇒災害や危機に**「も」**強くなる！

価値向上型防災の概念



- ◎ 価値向上への継続的取り組み
 - ◎ 質の低下を最小に、早期に復旧復興を進める
- ⇒ 両方を実現する防災・BCへの取り組み

今日を愛し、明日に備える

**Fight 闘う君の唄を闘わない
奴等が笑うだろう**

**Fight 冷たい水の中をふるえ
ながら上っていけ**

中島みゆき

ご清聴ありがとうございました！

**「コミュニティ防災教育ミーティング浜田 2026」
投影資料
（報告：中井佳絵氏）**

（1月16日 開催）

コミュニティ防災教育推進事業 広島市豪雨災害伝承館視察 ご報告

2026/1/16

ボウジョレーヌプロジェクト

中井佳絵

BRP ボウジョレーヌプロジェクト

1

BRP ボウジョレーヌプロジェクト

中井佳絵 経歴

- ▶大学卒業後、 広島にてフリーアナウンサーとして活動
- ▶2010年 防災士取得
- ▶2011年 法政大学大学院政策創造研究科入学
- ▶2012年 同大学院修了、防災教育論文にて政策学修士号取得
- ▶2012年-17年 福島県復興ワークショップファシリテータ
- ▶2013年-15年 法政大学大学院地域創造システム研究所 特任研究員
- ▶2014年-15年 徳島大学大学院非常勤講師(広島市豪雨災害調査団)
- ▶2016年-現在 ボウジョレーヌプロジェクト代表
- ▶2017年-現在 (一社)福祉防災コミュニティ協会認定コーチ
- ▶2018年-25年 広島市安佐南区にある広島経済大学非常勤講師
- ▶2020年-24年 広島県熊野町防災減災まちづくり会議ファシリテータ

視察の背景と目的

- 島根県は広島県に次いで土砂災害警戒区域の数が全国2位。過去には石見地方で大きな被害のあった1983年(昭和58)年7月の豪雨災害、復旧途中の被災地を襲った1988年(昭和63)年7月豪雨災害が発生。
- 1872年(明治5年)3月14日には地震の規模がM7.1、最大震度7相当の浜田地震もあり、山崩れが6,567か所で起きた。
- 平成の大合併で5市町村(旧浜田市、金城町、旭町、弥栄村、三隅町)が合併した浜田市は地域コミュニティ形成に課題を抱えている。
- 地域と連携したコミュニティ防災教育を推進する事で地域防災力を向上することが本事業の目的であり、視察では2014年(平成26年)8月 **広島市豪雨災害の教訓を自分事として石見地域に活かす取り組みへ繋げることを目指し**防災減災学習をする。

SCHEDULE

DATE: 12/20(土)

09:00 浜田駅前のセブンイレブン付近 (予定)

09:45 浜田駅前出発 (予定)

※希望者があれば、金城、旭、瑞穂に寄ります

11:00 安佐S.Aにて休憩予定

※各自この間に昼食をお取りください。

12:00 安佐S.Aを「豪雨災害伝承館」に向け出発

13:00 「豪雨災害伝承館」着 (展示物自由見学)

13:30 ワークショップ
広島豪雨災害の教訓を石見地域で活かすには？

- 副館長・島堀さんの体験談&質疑応答
- 「自分ごと化」して石見地域で活かすためのWS

16:00 豪雨災害

※希望者があれば、金城、旭、瑞穂に寄ります

注意事項

- スケジュールは変更となる場合があります
 - 昼食は安佐S.Aにて各自でお願いいたします
 - 交通事情により遅れが生じる事があります
 - 必要なモノは各自ご用意ください
- ※予めご了承ください

ファシリテーター 紹介

防災士
ポウジョレヌプロジェクト
代表 中井佳絵さん
(なかい よしえ)

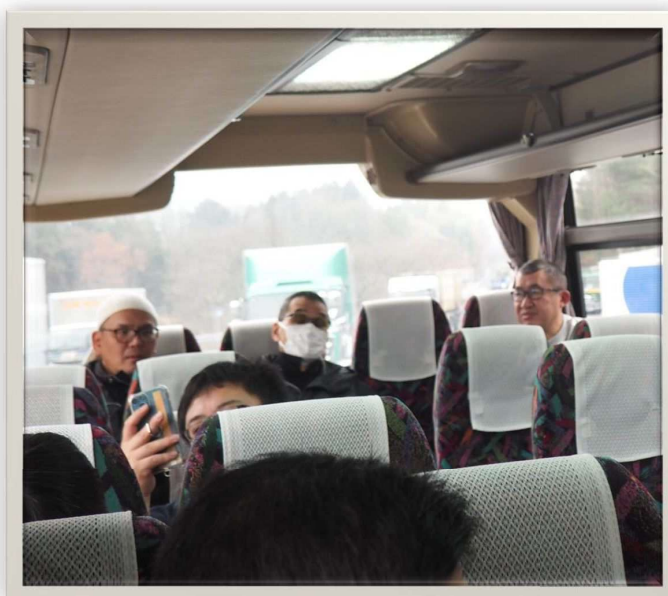
防災減災学習の内容

- 広島市豪雨災害では土石流で自宅が被災し、その後は復興拠点「モンドラゴン」を運営された伝承館副館長・島堀秀春氏から体験談を伺う。
- 体験談から教訓を得て、参加者が課題と解決方法を意見交換し、**石見地域で取り組みたい活動**を考える。

防災減災学習スケジュール

- 13:30～①スケジュール案内・浜田の豪雨リスクの説明・語り部紹介(15分)
13:45～②副館長・畠堀さんの体験談&質疑応答
14:25～③ワールド・カフェ進め方の説明
14:30～④体験談を聴いての教訓や気がかりな点をポストイットに記入(10分)
14:40～⑤自己紹介→1ラウンド目の意見交換『感想や心配な点』(10分)
14:50～⑥移動 一人が残り(カフェマスター)、他の3人はバラバラに移動する
14:55～⑦2ラウンド目の意見交換『石見地区に活かせる取組&アイデア』(20分)
15:15～⑧移動 一人が残り(カフェマスター)、他の3人は元のグループに戻る
15:20～⑨3ラウンド目『アイデア深堀』&収穫『一人一人ができること』(15分)
15:45～⑩アイデア投票と共有&まとめ(15分)
16:00 終了予定

🚌 参加者11名で浜田駅を出発 🚌



到着前に慰霊碑と砂防堰堤を見学



伝承館の展示見学



伝承館展示の感想

- ◆ 豪雨災害の3D映像を見て怖いと感じた。
- ◆ 写真やデータで具体的に展示してあり、理解しやすかった。
- ◆ 当時の様子を知ることができ、**危機管理の大切さを再認識**できた。
- ◆ 災害の展示を見て、**防災の重要性と色々な知識習得も大切**に感じた。
- ◆ 動画を見て衝撃を受けた。もし浜田で起こったら・・・と思うと怖くなった。
- ◆ わかりやすく動画で説明があったのが良かった。
- ◆ 浜田にもこのような施設があったら良い
- ◆ 被災したことから学び、**活かして伝えていく行動力のある方が多く**おられる事が素晴らしいと思った。
- ◆ **伝える大切さ**を学びました。
- ◆ 思った以上に土砂災害の規模が大きくて驚いた。

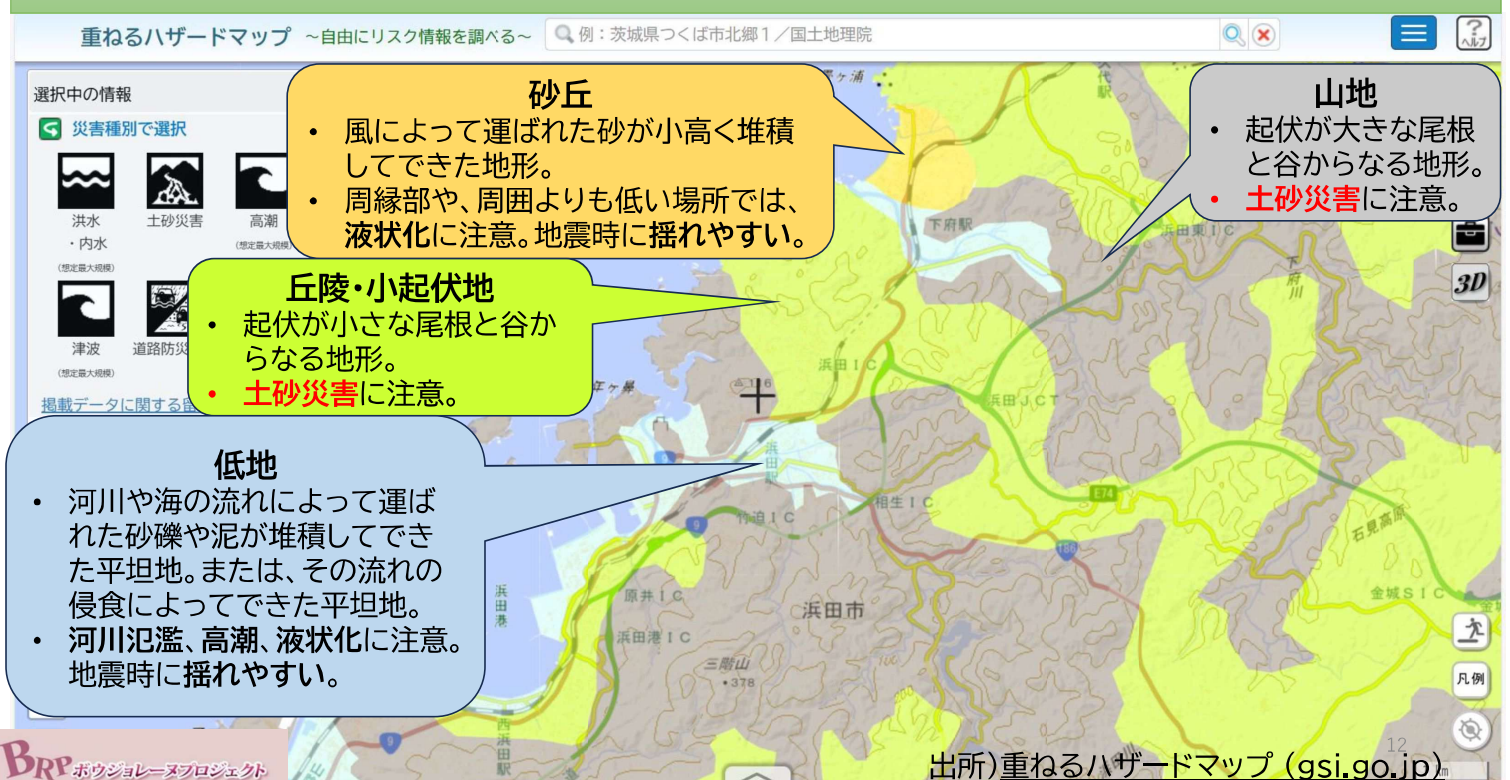
伝承館研修室での学び：フシ学習



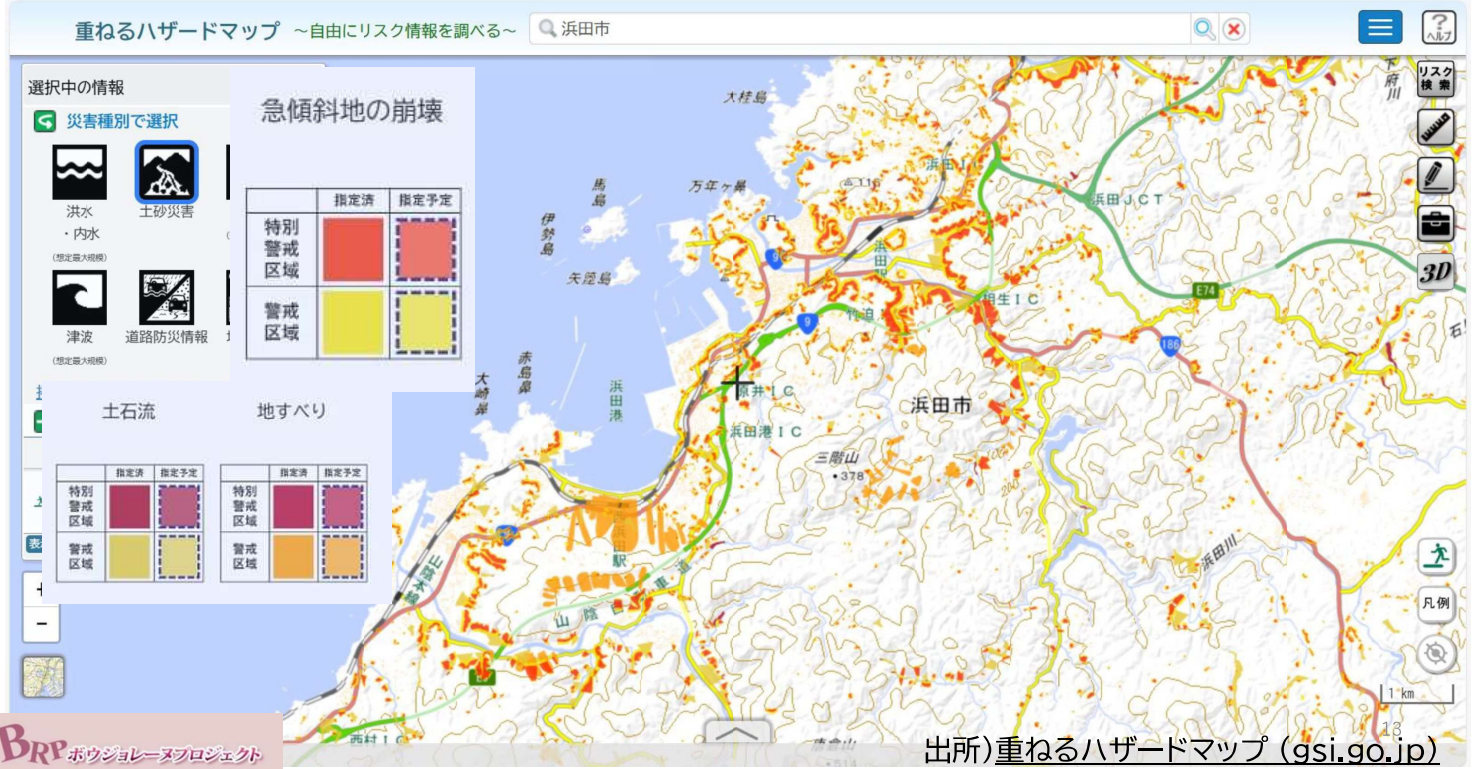
3つが重なると自然災害



浜田市：地形の成り立ちと自然災害リスク



浜田市：土地の特徴：土砂災害警戒区域が多い



浜田市役所周辺：土地の特徴：土砂災害警戒区域が多い



伝承館研修室での学び：体験談



畠堀さんの体験談を聴くポイント👉

1. お話は石見地区にも多くある土砂災害警戒区域内で実際に起きた被害や復興プロセスです。
2. 石見地区で同じような状況になったら、**自分は適切に避難できそう**ですか？
3. 石見地区で同じような状況になったら、**近所や地域の方々と共に助け合える体制**はできていますか？
4. 畠堀さんの体験や実施した取り組みから、**浜田市で今後取り入れられそうなコト**は？
5. 石見地区で取り入れる際に、**考慮すると良いコト**は？

体験談で感じたことをメモしておこう

【黄色ポストイット】

- ・感想、心配 & 気がかりな点

例) 浜田で同じような
災害が起きたら
避難できるか不安

【青色ポストイット】

- ・石見地区に活かせそうな取組
- ・地域防災力向上アイデア

例) 普段から
地域で活動する

※黒のサインペンで書いて下さい。

※1枚のポストイットは、1行に10文字程度×4行までで収めて下さい。

畠堀氏体験談の概略

【①イントロ】

- ・発災前は起きるはずがないと思っていた。
 - 災害が起きる前に物だけでなく知識を得て考えを深めて備えることが大事。
 - 想像力が避難力にかわる。
- ・これからは官民での新しいまちづくりと、若い世代へ伝承する縦へのバトンが重要。

【②発災時の状況】

- ・3時台の避難勧告時には畠堀さん宅に土砂が流入していた。
- ・夜中に発生し、しかも停電して自主防災組織の名簿は機能しなかった。
- ・畠堀宅は大規模半壊;土砂だけでなく大木も流入。仏壇・畳・台所は泥だらけ。

【③復旧から復興へ】

- ・新しいまちづくりのとき福祉に強い街づくりをするなど官民両輪で課題解決を。

【④地域防災タイムライン作成の勧め】

- ・作成のポイントは、要配慮者の情報発信や住民同士の情報共有。

畠堀氏との質疑応答

Q1) 11年前当時の自主防災組織や市からの教育などはどの程度あったか？

A1) 自主防災組織は毎年届けていたが、**知識のない状態**であった。
地域の上位者のみに対応する体制では機能しない。
避難所生活を想定すると、**女性の目線がとても重要**である。
リーダーとサポートする人材が必要。

Q2) 高齢化が進む集落で、防災組織が機能していない。
高齢者が多すぎてサポートしきれない。自分の身は自分で守る。

A2) 地域で支え合うのは大変。**気に掛け合う、声かけ**などの実行動が大切。

Q3) 福祉面で強化された面は？

A3) 子供に対する対応は必要である。PTAなども空中崩壊に近い状態だが、**何かしたい方々へ市が支援する広島市のエルムという仕組み**があり、
そういった仕組みの活用も一つの手。

畠堀氏体験談の感想

- ◆ 災害対策について、インフラ整備、避難訓練など色々あるが、結局のところ、一番大切なのは**住民意識**であると分かった。**友人にも共有したい**。
- ◆ 自分が言ってきたことが正しかったと確認できた。
- ◆ 「考える」ことの大切さ、災害によって亡くなる人を生まないための思いを実感しました。
- ◆ またお話を聞きたくなる内容でした。
- ◆ 災害に被災された後、今の姿になれるストーリーが勉強になりました。
- ◆ 大変分かりやすく参考になった。特に、**実体験のお話が心に響く**ものがありました。
- ◆ 実際に災害を体験されたお話で大変勉強になり、良きお話でした。
- ◆ 「災害なんて起こると思っていなかった」リアルな感想を聞いて、自分もそうだと思っているし、**今後どうすべきかを考えさせられた**。
- ◆ 体験からより具体的に深堀りされており、よく理解できた。**体験談は直接心に響いた**。
- ◆ 100mmの雨の動画を見て、自分は動かず留まると思ったとき、それでは死んでしまうんだと思った。

伝承館研修室での学び：WS



①ワールド・カフェとは？

会議室で日々繰り返される機能的な会議よりも、
「カフェ」で行うような、
オープンで自由な会話を通してこそ、
活き活きとした意見の交換や、
新たな発想の誕生が期待できる、
という考え方に基づいた話合いの手法

①7つのカフェチケット

- ①対等な立場でお話しましょう♪
- ②相手の話に関心をもちましょう👂
- ③話は短く簡潔にしましょう！！
- ④あなたの考えを積極的に話しましょう📣
- ⑤テーマに集中しましょう🌟
- ⑥アイデアをつなぎ合わせみましょう🌸
- ⑦絵やイラストも描いてみましょう😊

①意見交換の流れ

1R(20分)
『心配事
や
感想』

これって
大丈夫？

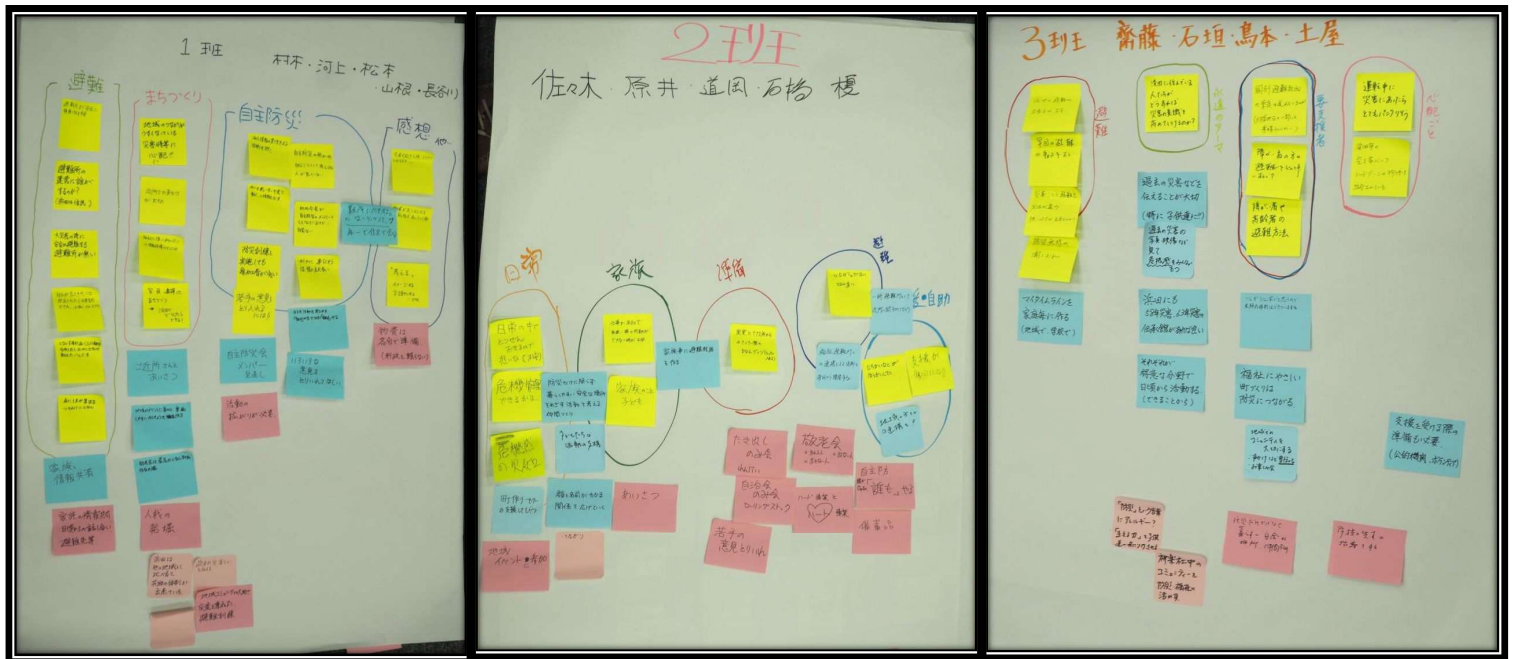
2R(20分)
『石見へ
活かせる
取組&ア
イデア』

これイイね👍

3R(10分)
『アイディ
ア共有
&深堀』


収穫(5分)
一人一人
ができる
具体的な
取組

WSの成果



WSの収穫：班

収穫アイデア（1班）

- ・ローリングストックの直会 
- ・防災に関心のある人、得意分野の人を
発掘し、共同で何かはじめる。
- ・交流会(花見、料理会等)と兼ねた避難訓練
- ・普段から公共のミルに「災害時のミルの使い方のポスターを貼っておく」

収穫アイデア（2班）

ふだんから
楽しくできる
訓練

収穫アイデア（3班）

神楽在中のコミュニティー
を防災や地域コミュニティー
の核として機能させる

WSの収穫：個人

No	豪雨災害に備えて自分ができること
1	「防災」という言葉を使わず「生きる力」や技術が身に付く様なイベント企画の開催(竹メンマも含む)
2	子どもたちに朝夕の(おはよう、おかえり)の声かけをし、返事が戻ってくる様に何度も繰り返し実効して、地域のコミュニティを推進する。
3	団地で出会うお年寄りにあいさつ + 「一言世間話」をして、少しずつ交流の輪を広げる !!例)元気にしてる? 腰がイタくてねえ
4	直会で、水などを少し多めに買って(保存の効く物) 次の直会に備える。ある意味ローリングストック法。あと、調味料は、「みんなの」物にする。※ 集会所において
5	自主防を役割ではなく「自ら主」に 防災に関心がある人でちょっとでも何かはじめてみる !! …BBQでもいいじゃん ♪親子?地域の人 仲間をふやしたい!
6	・地域でいろいろな得意分野の人を探し出し、まちづくりや防災と一緒に取り組んでもらう ・まちづくりセンターのトイレに、普段から災害時のトイレの使い方のポスターを貼る。 (災害時は使用禁止/備え付けのビニールをかぶせて!!)
7	・集落全体に常会の時に防災関係の備ちく品を集落会費から購入する
8	地域行事に参加 顔を覚えてもらう♡
9	自治会に参加し顔を覚えてもらう
10	自治会の参加
11	・交流会(花見・料理会等)をかねた避難訓練 ・地域行事に積極的に参加

WSアイデアの投票&共有



WS収穫のまとめ

参画

- ・積極的に参加し顔を覚えてもらう
- ・挨拶によるコミュニケーション

工夫

- ・これまでの風習に工夫を加える
- ・防災を前面に出さない活動

広島の教訓を石見地域へ持ち帰ります♥

